大学コンソーシアム沖縄　令和2年度　第1回運営委員会

議事次第(案)

１．日　時：令和２年６月５日（金）１５：００～１６：３０

２．場　所：Ｚｏｏｍ会議

３．議　事	資料番号
（１）大学コンソーシアム沖縄第１０回社員総会について	資料1～資料7
（２）公開講座及びＦＤ・ＳＤ事業について	
（３）その他	
①世界ウチナーンチュ学生サミットについて	
②大学コンソーシアム沖縄リーフレット	資料8
③数理・データサイエンス教育普及展開事業について	資料9

【配布資料】

（大学コンソーシアム沖縄　令和元年度第3回運営委員会　議事概要(案)）

資料　　大学コンソーシアム沖縄第１０回社員総会議事次第（案）

資料１　　定款の改正について

資料２　　理事の再任について

資料３　　大学コンソーシアム沖縄 法人活動（案）について

資料４　　令和元年度事業報告について

資料４－１　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

資料４－２　県民向け公開講

資料４－３　ＦＤ・ＳＤ事業

資料４－４　県内大学入試説明会（延期中）

資料５　　決算報告書（一般社団法人大学コンソーシアム沖縄）

資料６　　令和２年度事業計画（案）について

資料７　　令和２年度予算（案）

資料８　　大学コンソーシアム沖縄リーフレット（案）

資料９　　数理・データサイエンス教育普及展開事業について

参考資料１　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款

参考資料２　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄運営委員会運営委員名簿

令和元年度大学コンソーシアム沖縄 運営委員会（第３回）議事概要（案）

○日　時：令和２年２月１４日（金）１０：００～１１：３０
○場　所：琉球大学　大学本部棟　２階　第二会議室
○出席者：新田 早苗 事務局長（琉球大学総合企画戦略部長）、金城 徹 委員（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長）、中田 竜次 委員（沖縄キリスト教学院大学・短期大学総務課長）、田代 真紀 委員（沖縄大学総務課長）、比嘉 美昭 委員（沖縄国際大学事務局総務課長）、島袋 常義代理出席（沖縄女子短期大学総務企画課長）、砂川 一弥 委員（名桜大学総務課長）、仲里 勉 委員（沖縄県立看護大学総務課長）、長濱　為一 委員（沖縄科学技術大学院大学技術開発ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｾﾝﾀｰ R&D 担当審議役）
○欠席者：渡久地 寛 委員（沖縄県立芸術大学総務課長）、鈴木極（沖縄工業高等専門学校学生課長）
○陪席者：崎山 英樹（琉球大学総合企画戦略部地域連携推進課長代理）、島袋 健（同課 課員）

【要旨】
議題に先立ち、事務局から前回議事概要（令和元年１１月２８日開催）について、メールでの内容確認で一部修正の意見があり、修正後、再度確認のメールを行い、特に修正等の連絡は無かった旨の報告があった。

議題（１）理事の改選について
・新田事務局長から、資料１に基づき説明があった。審議の結果、沖縄キリスト教学院大学及び沖縄キリスト短期大学の新理事氏名のふりがな修正及び現職名に「宗教部長」を追記した上で、社員総会で諮ることとなった。

議題（２）大学コンソーシアム沖縄の規程整備ついて
・新田事務局長及び事務局から、資料２から資料６の規程、要領等案について説明があった。「公印取扱規程（案）」及び「監査に関する申合せ（案）」については、前回提案済みであり、意見照会で加除訂正は無かったこと、新規提案の謝金と旅費の支給事務要領はこれまでも琉球大学の要領を準用し、運用してきたこともあり、今回規定化した旨の説明があった。
・資料５の「共催及び後援等名義使用規程（案）」については、琉球大学の当該規程を参考に、第４条第２項として申請区分も設け、「協力」を追加している旨の説明があった。委員から「協力」は申請すべきものではないとの発言があった。
・審議の結果、「共催及び後援等名義使用規程（案）」については、委員からの意見を踏まえ、第４条第２項を事務局で検討し、修正等があれば、各委員へメールにて内容確認を行った上で次回社員総会へ諮ることとなった。
（主な意見、質問等）
・共催及び後援等名義使用規程（案）の第４条第２項の申請区分の定義は一般的、常識の範囲内のものである。
・申請区分は概ねそのとおりだと思うが、若干、県とは異なる部分がある。
・「協力」とは、協力依頼のようなもので、申請書を出して許可を得るものではないと思うし、協力することが縛られ、協力の幅が狭くなる恐れがあると思う。

議題（３）大学コンソーシアム沖縄法人活動について

・新田事務局長から、資料７に基づき、説明があった。審議の結果、本資料により、今年度の活動状況を踏まえ、次年度（令和２年度）の本法人の活動について社員総会で説明することとなった。

議題（４）沖縄学術振興会議資金残余（20 万円）の大学コンソーシアム沖縄への寄附申入れについて

・新田事務局長から、資料８に基づき説明があった。審議の結果、本資料により社員総会で諮ることとなった。

議題（５）博士後期課程の学生を対象にしたプレＦＤについて

・県立看護大学の仲里委員から資料９に基づき、提案理由の説明があった。審議の結果、新田事務局長から、社員総会時に本件に関する各大学の状況を確認したいという趣旨であり、各大学運営委員は、学長へその旨をお知らせするよう依頼があった。

議題（６）今年度の活動報告について

・事務局から、資料１０～資料１２に基づき、①子どもボランティアセンター、②ＦＤ・ＳＤ事業（県民公開講座・ＦＤ・ＳＤ事業取組一覧）、③県内大学入試説明会について説明があった。
審議の結果、本資料により今年度の活動を報告することとなった。

・なお、事務局から資料１１を作成するにあたり、、昨年６月の本委員会で承認された「実施状況報告書フォーマット」により、県民公開講座、ＦＤ・ＳＤ事業の提出依頼をメールで行う旨の協力依頼があった。

議題（７）その他

①リフレット案

・事務局から、資料１３に基づき説明があった。新田事務局長から社員総会でリフレットのイメージ案として説明し、本委員会で詳細を検討した上で発行することの了解を得たいとの発言があった。

②県民向け公開講座チラシパターン

・事務局から、資料１４に基づき、県民向け公開講座チラシパターンはあくまでも例示であり、各大学の事情に応じて加工修正の上、活用すること、「後援」や「協賛」などの記載にあたっては、事務局へ相談されるよう説明があった。

③「沖縄地の風」について

・新田事務局長から、資料１５に基づき経緯等の説明があり、本件が直接、大学コンソーシアム沖縄という組織に関わるものではないことから、お話のあったキリスト教学院大学の運営委員から学長の方へ説明してもらうよう依頼があった。

④おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会へのご案内

・新田事務局長及び事務局から、資料１６に基づき、案内があった。本件については、各大学との連携の必要もあり、社員総会で案内するかどうかは代表理事確認の上、行うこととなった。

⑤論文発表の先にあるもの　～ 研究成果の地域展開 ～

・新田事務局長及び事務局から、資料１７に基づき案内があった。

⑥「大学生向け消費者トラブルに関する資料の提供

・事務局から、沖縄県消費生活センターの室長の来訪があり、昨年末にあった仮想通貨等のトラブルに各大学への注意喚起を促したいとの要請があり、今回配付資料していること、また、沖縄県消費生活センターからは、各大学から相談があれば、出向くことの可能であるとの説明があった。

（以上）

大学コンソーシアム沖縄　第10回（令和２年度第1回） 社員総会
議事次第

１．日　時：令和２年６月１９日（金）　１４：００～１６：３０

２．場　所：琉球大学　大学本部管理棟　第一会議室（４階）〈ＷＥＢ(ZOOM)会議＞

３．議　事	資料番号
（１）開会挨拶	
（２）定款の改正について	資料1
（３）理事の再任について	資料2
（４）代表理事の選定及び副代表理事の指名について	資料なし
（５）大学コンソーシアム沖縄 法人活動（案）について	資料３
（６）令和元年度　事業報告について	資料4
①子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄県委託事業）	資料4－1
②県民向け公開講座	資料4－2
③ＦＤ・ＳＤ事業	資料4－3
④県内大学入試説明会	資料4－4
（７）令和元年度 決算について	資料5
（８）令和２年度 事業計画（案）について	資料6
（９）令和２年度 予算（案）について	資料7
(10) 閉会挨拶	

【配布資料】

（大学コンソーシアム沖縄　令和元年度第2回総会　議事録（承認済））

資料１　　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄　定款の改正について
資料２　　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄　理事の再任について
資料３　　大学コンソーシアム沖縄　法人活動（案）について
資料４　　令和元年度 事業報告
資料４－１　子どもの居場所学生ボランティアセンター概要資料
資料４－２　大学コンソーシアム沖縄　県民向け公開講座実施状況一覧
資料４－３　ＦＤ・ＳＤ事業実施状況一覧
資料４－４　県内大学入試説明会
資料５　　決算報告書
資料６　　令和２年度 事業計画（案）について
資料７　　令和２年度 予算（案）

参考資料１　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款
参考資料２　一般社団法人大学コンソーシアム沖縄役員等名簿

第９回 社員総会 議事録

１．総会の種類　臨時社員総会

２．日　　時　令和２年２月２７日（木）　午後１時５６分～午後５時１１分

３．場　　所　琉球大学　大学本部棟　第一会議室

４．総社員数　１０名

５．出席社員　琉球大学（代表理事：西田 睦）　名桜大学（副代表理事：山里 勝己）
沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学（理事：友利 廣）
沖縄大学（理事：盛口 満）　沖縄女子短期大学（理事：平田 美紀）
沖縄国際大学（理事：前津 榮健）　沖縄県立芸術大学（理事：比嘉 康春）
沖縄県立看護大学（理事：嘉手苅 英子）
沖縄工業高等専門学校（理事：安藤 安則）
沖縄科学技術大学院大学（代理出席：ロバート・バックマン）

６．欠席社員　沖縄科学技術大学院大学（理事：ピーター・グルース）

７．列 席 者　顧　　問：瀬名波 榮喜
事務局長：新田 早苗
運営委員：金城 徹、砂川 一弥、中田 竜次、田代 真紀、島袋 常義、比嘉　美昭、（代理）小波津 俊、（代理）今村 文昭、長濱 為一
関係職員等：ミサキ・タカバヤシ、牛窪 潔、本村 真、玉城 福子、獺口 浩一、岡﨑 威、崎山 英樹、島袋 健、

８．議　　事

第１号議案　理事の改選について
第２号議案　沖縄学術振興会議資金残余の大学コンソーシアム沖縄への寄附申入れについて
第３号議案　大学コンソーシアム沖縄の規程整備について
第４号議案　今年度の活動報告について
①子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業
②県民向け公開講座及びＦＤ・ＳＤ研修事業について
③県内大学入試説明会について
第５号議案　大学コンソーシアム沖縄　法人活動について
第６号議案　大学コンソーシアム沖縄リーフレットイメージ（案）について
第７号議案　博士後期課程の学生を対象としたプレＦＤについて
第８号議案　今後のアカデミック活動の可能性に向けて
第９号議案　おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会について

9．開会並びに定足数及び議事録署名人の確認

議長である西田代表理事から、本社員総会は定足数を満たし、有効に成立している旨報告があった後、開会宣言及び開会挨拶があり、議事審議に入った。

10. 定款第１５条の規定による議長の氏名

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄代表理事　西田　睦

11. 議事経過の要領及びその結果

○第１号議案　理事の改選について

議長から議案の提案があり、議長の指名により新田事務局長から資料に基づき、当法人理事の山里勝己名桜大学長、友利廣沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期学長、比嘉康春沖縄県立芸術大学長、安藤安則沖縄工業高等専門学校長が、本年３月３１日をもって学長又は校長の職を退任することに伴い、同日付けで当法人理事も退任することについての説明があった。

併せて、当法人の運営に支障が生じることがないよう、本年４月１日付けで当該大学等の学長又は校長に就任する予定の者を、同日付けをもって当法人の理事に就任させたく、本総会にて改選（残存期間の就任）を行うことについて説明があった。

定款第１７条第３項の規定に基づき、審議した結果、本年４月１日付けで学長又は校長に就任する予定の４氏について、理事の改選が承認された。

○第２号議案　沖縄学術振興会議資金残余の大学コンソーシアム沖縄への寄附申入れについて

議長から議案の提案があり、議長の指名により新田事務局長から資料に基づき、沖縄学術振興会議資金残余金 213,989 円の大学コンソーシアム沖縄への寄附申入れについて説明があった。また、当時、沖縄学術振興会議の理事で今回の寄附申入れを行った本法人の瀬名波顧問から、寄附申入れの経緯及び沖縄学術振興会議の補足説明があった。

審議の結果、本件について、全員異議なく承認された。

なお、大学コンソーシアム沖縄の趣旨は沖縄学術振興会議の趣旨を包含している旨の見解が示された。

○第３号議案　大学コンソーシアム沖縄の規程整備について

議長から議案の提案があり、議長の指名により事務局（島袋）から資料に基づき、大学コンソーシアム沖縄の規程整備（案）について説明があった。

審議の結果、本件について、本年４月１日から施行することで、全員異議なく承認された。

また、議長から、「大学コンソーシアム沖縄監査に関する申合せ」の２に基づき、沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学及び沖縄大学の理事を監査人とすることで、全員異議なく承認された。

○第４号議案　今年度（2019 年度）の活動報告について

議長から議案の提案があり、議長の指名により以下の者から資料に基づき、今年度（2019 年度）の活動について報告があった。

①子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

報告者：本村真 子どもの居場所学生ボランティアセンター長

・玉城コーディネーターから追加説明として、学生ボランティアや居場所のアンケートによる感想等について紹介があった。

②県民向け公開講座及びＦＤ・ＳＤ研修事業について

報告者：新田早苗（事務局長）

・沖縄キリスト教学院大学の県民向け公開講座「アフガニスタン命の水を～干ばつの大地に用水路を拓く～」の講師であるペシャワール代表の中村哲氏が亡くなられたことについて哀悼の意が表明された。

・出席者から、県民向け公開講座とＦＤ・ＳＤ研修事業が一覧表になっているのは良いが、目的が異なるものが混在しているのではとの意見があり、今後は分けて提示するとの回答があった。

③県内大学入試説明会について

報告者：新田早苗事務局長

・３月８日に沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会との共催で開催予定の県内大学入試説明会については、２７７名の申込みがあったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、延期することとしている旨、報告があった。

審議の結果、本件について、全員異議なく承認された。

○第５号議案　大学コンソーシアム沖縄　法人活動について

議長から議案の提案があり、議長の指名により新田事務局長から資料に基づき、大学コンソーシアム沖縄の次年度（2020 年度）に向けた法人活動について説明があった。

友利理事から、別法人において複数の大学が連携して提供している「知の風（金融人材育成講座）」を本法人の活動として組み込むことの検討に関する意見、また、教員を中心としたアカデミック活動の展開に関する意見等があった。

議長から、当法人の次年度（2020 年度）に向けた活動については、引き続き、運営委員会を中心に実施検討を進め、適宜、見直していくこと、県内の高等教育機関の学長・校長が集まる場として情報交流をよりさかんにしていくことも必要との説明があった。

審議の結果、本件について、全員異議なく承認された。

○第６号議案　大学コンソーシアム沖縄リーフレットイメージ（案）について

議長から議案の提案があり、議長の指名により新田事務局長から資料に基づき、大学コンソーシアム沖縄リーフレットイメージ（案）について、運営委員会において掲載内容を精査した上で、次年度の早い時期に発行する方向で進めたい旨の説明があった。

審議の結果、本件について、全員異議なく承認された。

○第７号議案　博士後期課程の学生を対象としたプレＦＤについて

議長から議案の提案があり、議長の指名により嘉手苅理事から資料に基づき、本議案の提案理由の説明があった。引き続き、各大学における状況の報告及び意見交換があった。

審議の結果、博士後期課程の学生を対象としたプレＦＤに関する意見交換を踏まえ、議長から本件を重要課題として位置づけて、引き続き、検討していきたいとの発言があり、全員異議なく承認された。

○第８号議案　今後のアカデミック活動の可能性に向けて

議長から議案の提案があり、議長の指名により理事の代理出席であるロバート・バックマン氏及び沖縄科学大学院大学のミサキ・タカバヤシ氏から資料に基づき、本議案の提案理由の説明があった。これを踏まえ、各大学における状況の報告ののち、アカデミック活動に向けたワーキンググループを設置すること等を含め意見交換があった。

審議の結果、今後のアカデミック活動の可能性に向けては、大学コンソーシアム沖縄は歩み出したばかりであることから、引き続き、本件について検討していくことで、全員異議なく承認された。

○第９号議案　おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会について

議長から議案の提案があり、議長の指名により陪席の琉球大学工学部の岡崎教授から資料に基づき、おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会について説明があった。

会員会費の徴収の有無や学問分野におけるデータサイエンスやＡＩ・ビッグデータの活用に関する状況について意見交換があった。

審議の結果、おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会を通した連携協力について、全員異議なく承認された。

○その他

議長から、その他の審議あるいは報告等がないか確認があり、新田事務局長から、沖縄ＭＩＣＥネットワーク事務局から提供された資料に基づき、沖縄ＭＩＣＥネットワーク事業スケジュールやツーリズムＥＸＰＯジャパン沖縄リゾート展について紹介があった。

続いて、本年３月末日をもって学長・校長及び本法人理事を退任する山里勝己名桜大学長、友利廣沖縄キリスト教学院大学・沖縄キリスト教短期大学長、比嘉康春沖縄県立芸術大学長、安藤安則沖縄工業高等専門学校長、並びに事務局長を退任する新田早苗琉球大学総合企画戦略部長から、退任の挨拶があった。

上記議決を明確にするため、本議事録を作成し、議長及び出席理事が記名押印する。

令和２年　　月　　日

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄　第９回社員総会

議　長　　西　田　　睦　　印

理　事　　山　里　勝　己　　印

理　事　　友　利　　廣　　印

理　事　　盛　口　　満　　印

理　事　　平　田　美　紀　　印

理　事　　前　津　榮　健　　印

理　事　　比　嘉　康　春　　印

理　事　　嘉手苅　英　子　　印

理　事　　安　藤　安　則　　印

（議事録作成者）

運営委員（琉球大学地域連携推進課長）　金　城　　徹

資料１

大学コンソーシアム沖縄定款の一部改正に伴う新旧対照表

新	旧
（改正理由） ・代表理事の選定は、現行の定款第２３条において「理事の互選」と規定されているため、理事の互選書を作成していたが、業務効率化等の観点から「社員総会の決議」と改める。 ・本法人は、法人税法上の非営利型法人として位置づけられている。同法施行令第３条第１項第１号では「その定款に剰余金の分配を行なわない旨を定款に定めがあること」、第２号では「その定款に解散したときはその残余財産を国若しくは地方公共団体又は次に掲げる法人に帰属する旨のあること。イ　公益社団法人及び公益財団法人、ロ　公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条第１７号イからトまで（公益認定の基準）に掲げる法人」と定めており、同条第１項において非営利型法人は上記の要件に該当する法人と定めているが、本法人の定款には、その定めが無いため、今回規定の整備を行う。	
大学コンソーシアム沖縄定款	**大学コンソーシアム沖縄定款**
第１条～第２２条　　略	第１条～第２２条　　略
（代表理事等） 第２３条　理事のうち、１名を代表理事、１名を副代表理事とする。 ２　代表理事は、社員総会の決議によって選定する。 ３　　略	（代表理事等） 第２３条　理事のうち、１名を代表理事、１名を副代表理事とする。 ２　代表理事は、理事の互選によって選定する。 ３　　略

新	旧
第２４条～第３０条　　略	第２４条～第３０条　　略
（剰余金の不分配） 第３１条　この法人は、剰余金の分配を行わない。	（新規）
第７章 事務局	第７章 事務局
（事務局） 第３２条　　略	（事務局） 第３１条　　略
第８章　定款の変更、合併及び解散等	第８章　定款の変更、合併及び解散
（定款の変更） 第３３条　　略	（定款の変更） 第３２条　　略
（合併等） 第３４条　　略	（合併等） 第３３条　　略
（解散） 第３５条　　略	（解散） 第３４条　　略
（残余財産の帰属） 第３６条　この法人が、精算する場合において有する残余財産は、社員総会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第５条１７号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。	（新規）
第９章 公告の方法	第９章 公告の方法
（公告の方法） 第３７条　　略	（公告の方法） 第３５条　　略

新	旧
第１０章　附則 （最初の事業年度） 第３８条　　略 （設立時の役員等） 第３９条　　略 （設立時社員の名称及び住所） 第４０条　　略 （設立時の顧問・事務局長） 第４１条　　略 （法令の準拠） 第４２条　　略 附　則（平成２６年８月８日） この定款は，平成２６年８月８日から施行する。 附　則（令和２年　月　日） この定款は，令和２年　月　日から施行し、令和２年４月１日から適用する。	第１０章　附則 （最初の事業年度） 第３６条　　略 （設立時の役員等） 第３７条　　略 （設立時社員の名称及び住所） 第３８条　　略 （設立時の顧問・事務局長） 第３９条　　略 （法令の準拠） 第４０条　　略

資料２

一般社団法人大学コンソーシアム沖縄　理事の再任について（案）

１．理事の再任の手続について

・一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款（以下「定款」という）第２４条では、「理事の任期は、選任後、２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時まで」とされていることから、再任の手続が必要となる。

・定款第１７条第３項に基づき、候補者ごとに再任の議決を行わなければならない。（総正会員の過半数を有する正会員の出席と正会員の議決権の過半数）

２．各理事の就任・再任の年月日は以下のとおり。　　（令和２年４月１日現在）

No	氏名	大学・役職	大学ｺﾝｿｰｼｱﾑ沖縄・役職	再任後の任期	備　　考
1	西田　睦(ﾆｼﾀﾞ　ﾑﾂﾐ)	琉球大学長	代表理事	令和２年定時総会の日 ～令和４年定時総会の日	
2	金　永秀（ｷﾑ ﾖﾝｽ）	沖縄キリスト教学院大学長 沖縄キリスト教短期大学長	理事	〃	
3	盛口　満（ﾓﾘｸﾞﾁ ﾐﾂﾙ）	沖縄大学長	理事	〃	
4	平田　美紀（ﾋﾗﾀ ﾐｷ）	沖縄女子短期大学長	理事	〃	
5	前津　榮健（ﾏｴﾂ　ｴｲｹﾝ）	沖縄国際大学長	理事	〃	
6	波多野　泉（ﾊﾀﾉ ｲｽﾞﾐ）	沖縄県立芸術大学長	理事	〃	
7	砂川　昌範（ｽﾅｶﾞﾜ ﾏｻﾉﾘ）	名桜大学長	理事	〃	
8	嘉手苅　英子（ｶﾃﾞｶﾙ ｴｲｺ）	沖縄県立看護大学長	理事	〃	
9	伊原　博隆（ｲﾊﾗ ﾋﾛﾀｶ）	沖縄工業高等専門学校長	理事	〃	
10	グルース・ハインリッヒ・ピーター・ホースト	沖縄科学技術大学院大学長	理事	〃	

３．一般社団法人大学コンソーシアム沖縄定款（抜粋）

（決議）

第１７条　社員総会の決議は、法令又は定款に別段の定めがある場合を除き、総正会員の議決権の過半数を有する正会員が出席し、出席した当該正会員の議決権の過半数をもって行う。

（略）

３　理事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。

（理事の任期）

第２４条　理事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時社員総会の終結の時までとする。ただし、再任を妨げない。

２　任期満了前に退任した理事の補欠として選任された理事の任期は、前任者の任期の残存期間と同一とする。

資料３

大学コンソーシアム沖縄　法人活動について（案）
（2/27 社員総会資料の一部訂正版）

令和２年度以降の大学コンソーシアム沖縄の法人活動は以下のとおり

Ⅰ　令和２年度以降の実施事業

１　~~グローバル~~連携による人材育成事業
- ①　トビタテ！留学ＪＡＰＡＮ　地域人材コース
- ②　世界ウチナーンチュ学生サミット～教育連携～
- ③　キャリア教育（インターンシップ）～教育連携～
- ④　単位互換～教育連携～

２　地域課題対応事業
- ①　子どもの居場所学生ボランティアセンター

３　ＦＤ・ＳＤ事業
- ①　教育の質保証に関する合同ＦＤ～教育・研究連携～
- ②　大学職員合同研修ＳＤ～教育・研究連携～

４　生涯学習事業
- 県民向け公開講座

５　その他事業等
- ①　県外向け合同学生募集活動
- ②　情報交換会（教員向け）

Ⅱ　法人の運営体制
- １　規程の整備
- ２　事務局体制の整備（人事交流を含む）及び公益法人化について

Ⅲ　その他の懸案事項
- １　「地域連携プラットフォーム（仮称）」の検討
- ２　国公私立の枠組みを越えた連携の仕組みの検討

資料 4

令和元年度 事業報告

資料４－１　子ども居場所学生ボランティアコーディネート事業

資料４－２　県民向け公開講座

資料４－３　ＦＤ・ＳＤ事業

資料４－４　県内大学入試説明会

資料4-1

子どもの居場所学生ボランティアセンターとは

内閣府

沖縄子供の貧困緊急対策事業

沖縄県

子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

子どもの居場所学生ボランティアセンター

子どもの居場所学生ボランティアセンター概要

設　立

設　立：２０１６年４月１４日

体　制

センター長	本村　真　（琉球大学　人文社会学部　人間社会学科　教授）
副センター長	上原　健二　（沖縄女子短期大学　児童教育学科　准教授）
	渡久山　朝裕　（沖縄県立看護大学　看護学部　看護学科　准教授）
	比嘉　憲枝　（名桜大学　人間健康学部　看護学科　上級准教授）
	比嘉　昌哉　（沖縄国際大学　総合文化学部　人間福祉学科　教授）
	山野　良一　（沖縄大学　人文学部　福祉文化学科　教授）
コーディネーター	喜久里　瑛、　砂川　育子
事務補佐員	大城　愛梨　、　渡慶次　美奈子　（50音順で記載）

子どもの居場所学生ボランティアセンターのしくみ

子どもの居場所学生ボランティアセンター



名桜大学
沖縄科学技術大学院大学
沖縄女子短期大学
沖縄大学
沖縄キリスト教学院大学
沖縄キリスト教短期大学
琉球大学
沖縄国際大学
沖縄工業高等専門学校
沖縄県立芸術大学
沖縄県立看護大学

学生サポートボランティア派遣

学生支援・メンター制度

子どもの居場所

学習支援教室

子ども食堂

子ども向け
アクティビティ

沖縄県内専門職団体から
メンターの派遣

参加団体

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会、沖縄ソーシャルワーカー協会、沖縄県医師会、沖縄県看護協会、沖縄県公認心理師協会、沖縄県教職員組合、 沖縄県社会福祉士会、沖縄県精神保健福祉士会、等

3

学生派遣によって期待される効果



お兄さん
お姉さん
的存在



居場所における安心感の向上

学校生活への参加意欲の高まり



自己肯定感の向上

居場所における他の活動

4

学生が子どもの居場所へ派遣されるまでの流れ

学生からの応募

↓

事前研修会の受講

↓

学生サポートボランティアとしての登録

↓

学生の希望と子どもの居場所とのマッチング

↓

子どもの居場所へ学生を派遣

5

学生への処遇

受託事業費より

- ボランティア保険の加入費
- 自宅から子どもの居場所までの交通費

寄 付 金 よ り

- ボランティア活動において、１時間あたり７６０円の謝金を支給

6

学生へのサポート・・・メンター制度

沖縄県内専門職団体からメンターの派遣

悩み

仲間との悩みの共有

アドバイス

異なる大学、学年で少人数のグループを形成
＝
ピア・グループ

参加団体

- 沖縄県医療ソーシャルワーカー協会
- 沖縄ソーシャルワーカー協会
- 沖縄県医師会
- 沖縄県看護協会
- 沖縄県公認心理師協会
- 沖縄県教職員組合
- 沖縄県社会福祉士会
- 沖縄県精神保健福祉士会　等



7

学生サポートボランティア派遣状況

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度（3月末時点）
市町村より推薦を受けた居場所数	55	82	114	143
派遣希望居場所数	※1 －	※1 －	92	113
派遣済居場所数	22	45	72	80
派遣済市町村数	13	20	23	24
事前研修会受講者数	105	228	240	243
サポートボランティア登録学生数	76	172	205	237
学生派遣人数（今年度累計）	50	122	180	189
学生派遣回数	※1 －	※1 －	※1 －	4,120
学生が関わった子どもの数	2,885	15,449	29,409	36,519

※1　データ集計なし

8

2018年度大学別派遣状況

大学名	派遣人数	定期	不定期	離島	事前研修受講者数	登録者数
琉球大学	77	60	10	24	88	84
沖縄キリスト教学院大学	0	0	0	0	7	3
沖縄キリスト教短期大学	2	2	0	1	14	4
沖縄大学	7	7	2	0	10	9
沖縄女子短期大学	16	15	1	2	24	16
沖縄国際大学	27	26	1	5	34	28
沖縄県立芸術大学	2	1	2	0	0	2
名桜大学	27	22	2	6	40	32
沖縄県立看護大学	17	15	2	4	18	22
沖縄工業高等専門学校	4	3	1	2	4	4
ＯＩＳＴ	1	1	0	0	1	1
【合計】	175	152	21	44	240	205

9

2019年度大学別派遣状況

大学名	派遣人数	定期	不定期	離島	事前研修受講者数	登録者数
琉球大学	82	71	17	17	103	94
沖縄キリスト教学院大学	0	0	0	0	0	0
沖縄キリスト教短期大学	4	4	0	1	12	10
沖縄大学	5	4	1	2	14	8
沖縄女子短期大学	16	14	5	1	17	19
沖縄国際大学	26	26	1	4	32	27
沖縄県立芸術大学	2	2	0	0	6	2
名桜大学	43	39	8	6	54	58
沖縄県立看護大学	8	8	2	1	4	15
沖縄工業高等専門学校	2	2	0	1	1	3
ＯＩＳＴ	1	1	0	0	0	1
【合計】	189	171	34	33	243	237

10

島嶼地域の子どもの居場所への派遣

大学のない離島の子どもの居場所では、普段大学生と触れ合う機会が少ないために、学生サポートボランティアの派遣を望む声も大きい。これに応えるべく、子どもの居場所学生ボランティアセンターでは、学生の長期休暇を利用し、短期集中派遣を行っている。

離島名	2016年度 派遣人数 （ 居場所数 ）	2017年度 派遣人数 （ 居場所数 ）	2018年度・夏 派遣人数 （ 居場所数 ）	2018年度・春 派遣人数 （ 居場所数 ）	2019年度・夏 派遣人数 （ 居場所数 ）	2019年度・春 派遣人数 （ 居場所数 ）
石垣島	2人 （1ヶ所）	10人 （ 1ヶ所 ）	14人 （ 4ヶ所 ）	3人 （ 4ヶ所 ）	10人 （ 4ヶ所 ）	1人 （ 1ヶ所 ）
宮古島	4人 （3ヶ所）	20人 （ 5ヶ所 ）	20人 （ 5ヶ所 ）	7人 （ 5ヶ所 ）	12人 （ 6ヶ所 ）	4人 （ 3ヶ所 ）
多良間島	0人 （0ヶ所）	4人 （ 1ヶ所 ）	3人 （ 1ヶ所 ）	1人 （ 1ヶ所 ）	2人 （ 1ヶ所 ）	1人 （ 1ヶ所 ）
伊平屋村	—	—	—	2人 （ 1ヶ所 ）	3人 （ 1ヶ所 ）	2人 （ 1ヶ所 ）
南大東村	—	—	—	2人 （ 2ヶ所 ）	2人 （ 2ヶ所 ）	2人 （ 2ヶ所 ）
【 合計 】	6人 （4ヶ所）	33人※1 （7か所）	34人※2 （10か所）	14人※3 （13か所）	28人※4 （14か所）	8人※5 （8か所）

※1 宮古島と多良間島の２か所で活動した学生１名が重複。※4 宮古島と多良間島の２か所で活動した学生1名が重複。
※2 宮古島と多良間島の２か所で活動した学生３名が重複。※5 宮古島と多良間島の２か所で活動した学生1名が重複。
※3 宮古島と多良間島の２か所で活動した学生１名が重複。

学生サポートボランティア事前研修会の開催

講義内容

● コーディネーター	ボランティアセンターの概要説明（心得等）
● コーディネーター	子供の貧困緊急対策事業概要（沖縄県資料）
● 社会福祉士・児童福祉司	ソーシャルワークの基礎
● 居場所スタッフ	子どもの居場所関係者による現場からの声
● 学生ボランティア	学生ボランティアによる現場からの声
● 弁護士	子どもたちの人権について

	日 時	場 所	参加人数
第１回	2019年4月21日（日）	琉球大学	122
第２回	2019年5月26日（日）	名桜大学	53
第３回	2019年11月10日（日）	沖縄大学	68
		合計	243





ピアグループ＆メンター制度の実施

学生サポートボランティアをする「仲間（ピア）」同士が集まる機会を設け、同時に対人援助の専門家に「助言者（メンター）」として話を聴いて頂くことで、ボランティア活動で生じた悩みの解消を図ることを目的とする。





● メンター実施状況（2019年度）

	開催数	参加人数	大学別参加人数
第１期（８月）	1	19	琉球大学8名、沖縄国際大学8名、沖縄県立看護大学3名
第２期（10月、11月）	2	10	琉球大学1名、名桜大学7名、沖縄女子短期大学1名、沖縄国際大学1名
第３期（３月）	2	5	名桜大学2名、琉球大学2名、沖縄国際大学1名

学生提案型企画

子どもの貧困問題に関する理解を深め、卒業後にも引き続き課題解決に貢献できる人材として社会で活躍するための経験を提供することを目的とし、学生サポートボランティアが自ら子どもの貧困問題の解決や啓発に主体的に取り組むプロジェクトを公募し、採用プロジェクトに対し支援を行った。

募集期間：2019年5月31日～7月8日

応募総数：1件

採用プロジェクト

テ　ー　マ：『三線弾ちゅに？』
歌三線を通してものを大切にする気持ちを育む

プロジェクト期間：　2019年10月～2020年1月

場　　所：　子どもの居場所わらびいくらぶ（中城村）

企 画 者：　久保駿太郎、上原拓珠、篠田知希（琉球大学）

成果発表会：　2020年3月6日

子どもの居場所学生ボランティアセンター主催　研修会＆シンポジウム

沖縄県内の子どもを取り巻く実情や、国内の先進的取組みに関する研修会として実施。学生のスキルアップ及び一般市民への子ども支援への理解を深めることを目的とし、『発達障害児の支援を学ぶ～みんなが居心地の良い子どもの居場所を目指して～』と題して、研修会を開催した。

日　　時 ： ２０１９年１２月１５日（日）１０：００～１２：００
場　　所 ： 沖縄国際大学　１３号館　３０２教室
対　　象 ： 学生サポートボランティアに登録する学生 / 一般市民
参加人数 ： ４０名
テ　ー　マ ：「発達障害児の支援を学ぶ～みんなが居心地の良い子どもの居場所を目指して～ 」
講　　師 ： 知名 孝 氏 （沖縄国際大学　准教授 ）





15

子どもの居場所学生ボランティアセンター活動報告会

寄付を頂いた企業・個人・団体へ、今年度の本センターの活動状況を報告するとともに、サポートボランティアとして活躍する学生や子どもの居場所関係者の現場の声を紹介し、学生サポートボランティアによる成果を報告するための動画を撮影した。

日 時 ： ２０２０年3月２６日（木）１６：３０～１８：００
場 所 ： 琉球大学　文系総合研究棟　2階　A会議室

■学生による活動報告
沖縄県立看護大学　新垣　星羅
沖縄国際大学　池間　蘭人

■居場所による報告
中城村　子どもの居場所わらびいくらぶ　支援員　井村　真帆
大宜味村　ぶながやっ子ハウス　代表　上原　幸彦








16

子どもの居場所と学生へのアンケートの実施

今後の事業内容の改善を目的とし、子どもの居場所ならびに登録学生へのアンケートを行った。

調査期間：2020年1月20日～2月9日

調査対象：〇沖縄県内の子どもの居場所（当センターから派遣していない居場所も含む）

〇一度でも派遣されたことのある学生

調査方法：メールにてURL（Googleフォーム）を送付、または郵送にて配布・回収

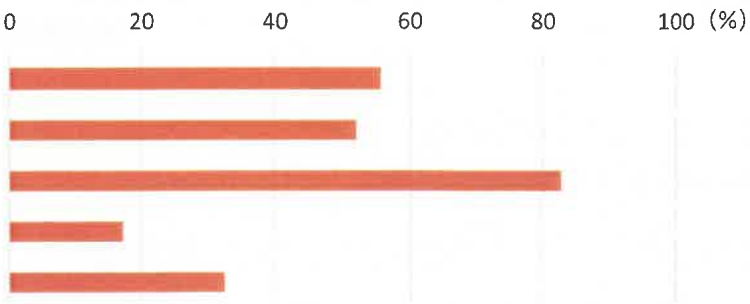
回収状況：子どもの居場所　（ 109 / 187、回収率58% ）

学生サポートボランティア　（ 117 / 185、回収率63% ）

【アンケート結果（居場所編より抜粋）】

問４　貴居場所で、学生サポートボランティアが担う役割を教えてください。（いくつでも）

●役割	回答数	比率
1　食事支援	29	56%
2　生活指導	27	52%
3　学習支援	43	83%
4　キャリア形成	9	17%
5　その他	17	33%

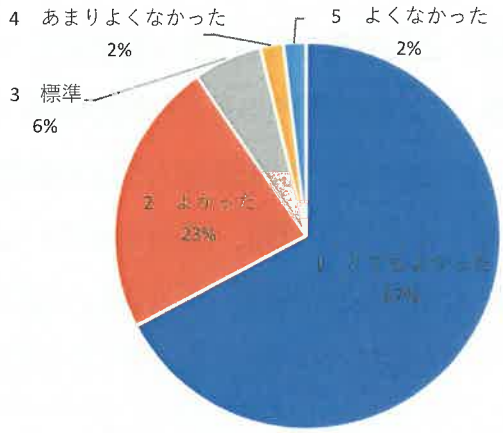


（回答者数 52）

その他：遊び相手等

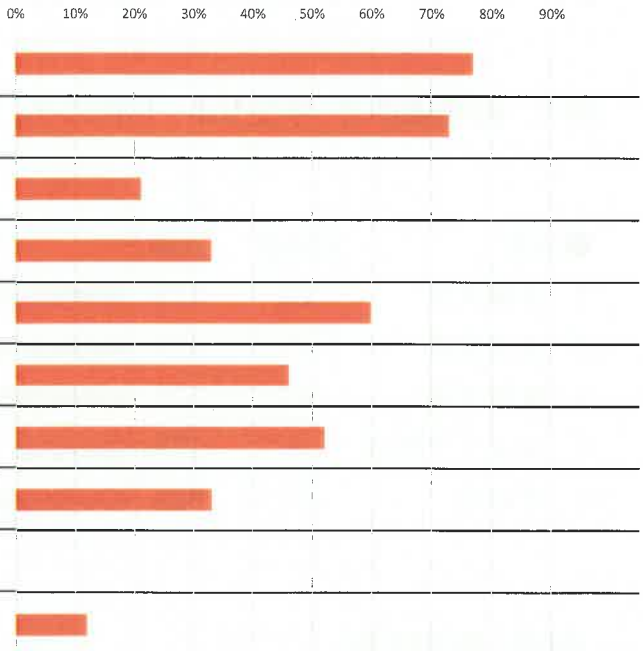
問７　学生サポートボランティアを受入れた感想を教えてください。（ひとつだけ）

●受け入れた感想	回答数	比率
1　とてもよかった	35	67%
2　よかった	12	23%
3　標準	3	6%
4　あまりよくなかった	1	2%
5　よくなかった	1	2%
合計	52	



問８　学生サポートボランティアを受入れてよかった点を教えてください。（いくつでも）

●受け入れて良かった点	回答数	比率
1　子どもが、学生サポートボランティアをお兄さん、お姉さんのように慕っていた	40	77%
2　子どもが、学生サポートボランティアに会う日を楽しみにしていた	38	73%
3　子どもが、将来の夢や希望を持つようになった	11	21%
4　子どもの学習意欲がわいた	17	33%
5　居場所スタッフとは異なる役割を果たしてくれた	31	60%
6　居場所スタッフでは対応が難しいこと（勉強、体を使う遊びや運動）に対応してくれた	24	46%
7　いろんな人と出会う機会となり、子ども達の対人関係能力が向上した	27	52%
8　学生サポートボランティアとの関わりで、子ども達が進学・就職をイメージできるようになった	17	33%
9　特にない	0	0%
10　その他	6	12%



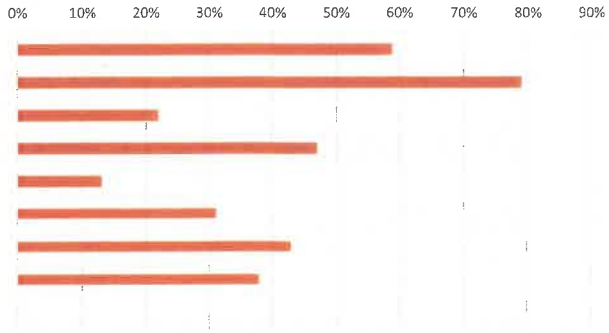
（回答者数 52）

その他
- 子ども達の安心感が増えた。
- 派遣された学生が外国人であったため、よい刺激をいただいた。
- いつもと違う明るい表情がみられるようになった。

【アンケート結果（学生編より抜粋）】

問11　ボランティア活動を通じて、学んだことや得られたことを教えてください。（いくつでも）

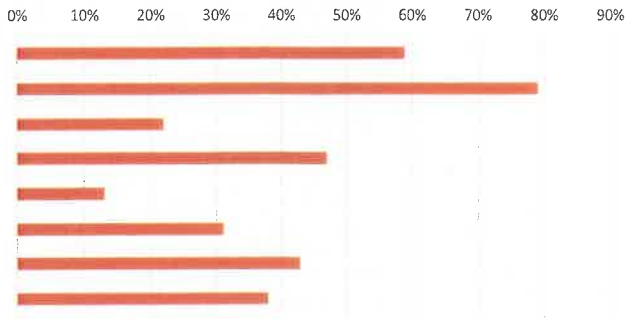
●学んだこと、得られたこと	回答数	比率
1　子どもの貧困問題について深く知ることができた	71	59%
2　子どもとの関わりが上手になった	95	79%
3　勉強の教え方が上手になった	26	22%
4　地域について知ることができた	56	47%
5　社会の仕組みや経済の流れなどを知ることができた	15	13%
6　大学で学んでいることを実践することができた	37	31%
7　進路について深く考えるようになった	52	43%
8　将来、働くときに役に立つ情報を得ることができた	45	38%
9　特にない	0	0%



（回答者数 117）

問12　子どもとの関わりの中で、どのような変化が見られた子どもがいましたか。（いくつでも）

●関わりの中で見られた子どもの変化	回答数	比率
1　学習意欲が高まった	71	59%
2　大学等の高等教育に興味を持つようになった	95	79%
3　言葉で気持ちが伝えられるようになった	26	22%
4　自己否定的な表現が減った	56	47%
5　挨拶を積極的にできるようになった	15	13%
6　食事のマナーが身についた	37	31%
7　特にない	52	43%
8　その他	45	38%



（回答者数 117）

その他
・単独行動だったが、他の子と遊ぶようになった。
・周りの子と一緒に遊ぶことができた。
・性格が穏やかになった。
・社会性が身についた。　等

令和2年度の活動状況

- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、4月9日から対面によるボランティア活動を停止した。（オンラインでの支援は継続中）
- 各大学・学校の入学式やオリエンテーション等でPR活動を行う予定であったが、入学式の中止やオリエンテーションの時間短縮等により、PR活動が中止となった。
- 4月、５月に事前研修会を予定していたが、学生、講師の安全面を考慮し、対面での研修会を中止とした。６月21日にオンラインを利用した事前研修会を予定している。

寄附金一覧（2016年度～2019年度）

（単位：円）

	寄附団体名	寄附金収入		備考
2016年度	一般財団法人オリオンビール奨学金財団（現在、公益財団法人オリオンビール奨学財団）	5,000,000	21,510,000	
	沖縄県酒造組合	4,500,000		
	株式会社國場組	10,000,000		
	株式会社日本トランスオーシャン航空	2,000,000		航空チケット（上限100万×3年＝300万円相当）
	寺田克彦（テラ・ウェブ・クリエイト）	10,000		
2017年度	株式会社MUGEN	120,000	6,320,000	
	株式会社MUGEN	100,000		
	公益財団法人オリオンビール奨学財団	5,000,000		
	沖縄県酒造組合	1,000,000		
	J・TAP協力会	100,000		離島派遣時の宿泊費として
2018年度	沖縄法政学会	254,786	6,254,786	
	公益財団法人オリオンビール奨学財団	5,000,000		
	沖縄県酒造組合	1,000,000		
2019年度	個人（匿名）	100,000	6,440,000	
	株式会社MUGEN	40,000		
	公益財団法人オリオンビール奨学財団	5,000,000		
	琉球宇温基金	300,000		離島派遣学生に対する謝金に限る
	沖縄県酒造組合	1,000,000		

寄附金支出（学生への謝金支払い額・航空チケット）

（単位：円）

年度	寄付収入	謝金	寄付残高	航空チケット使用額	航空チケット残額	離島派遣宿泊費使用額	離島派遣宿泊費残額
2016年度	21,510,000	1,079,225	20,430,775		3,000,000		
2017年度	6,320,000	4,952,500	21,798,275	913,500	2,086,500		100,000
2018年度	6,254,786	8,260,990	19,792,071	917,000	1,169,500	100,000	0
2019年度	6,440,000	10,834,560	15,397,511	914,100	0※1		

※1　寄付チケット代の残額＝255,400円は、2020年度に繰り越しができない。

子どもの居場所（協定締結済み）一覧
【2020年度】

No	市町村名	運営主体	居場所名	運営主体		締結年月日
				市町村	その他	
1	那覇市	あけぼのほのぼの会	ほのぼのカフェ		○	2020年4月22日
2	浦添市	一般社団法人まちづくりうらそえ （『まちづくりNPOうらそえ』から名称変更）	森の子児童センター		○	2020年4月22日

子どもの居場所（協定締結済み）一覧
【2016年度～2019年度】

No	市町村名	運営主体	居場所名	運営主体		締結年月日
				市町村	その他	
1	那覇市	グロリアキッズクラブ	グロリアキッズクラブ		○	2020年1月23日
2	浦添市	はっぴーていだクラブ	はっぴーていだクラブ		○	2019年12月16日
3	うるま市	なかすき児童センター	ももたまな		○	2019年11月21日
4	名護市	aube屋部の浦食堂実行委員会	aube屋部の浦食堂		○	2019年10月25日
5	那覇市	首里城下町クリニック内 町の自習室	町の自習室		○	2019年9月11日
6	宜野湾市	宜野湾市福祉推進部　児童家庭課	Teen support room 沖種	○		2019年9月11日
7	那覇市	NPO法人にじのはしファンド にじの森文庫	にじの森文庫		○	2019年8月5日
8	那覇市	シオンハウス育成会	松川子ども広場		○	2019年8月2日
9	那覇市	子ども支援小禄にじの会	子ども支援小禄にじの会		○	2019年7月19日
10	浦添市	浦添市立内間児童センター	内間児童センター		○	2019年6月18日
11	南城市	一般社団法人とみ会	BIG MAMA HOUSE		○	2019年6月7日
12	糸満市	糸満市立西崎太陽児童センター	糸満市立西崎太陽児童センター		○	2019年5月20日
13	浦添市	株式会社トライグループ	浦添市てだこ未来学習支援型居場所		○	2019年4月17日
14	うるま市	株式会社レキオス	あじま一家		○	2019年2月28日
15	浦添市	仲西夢サポートセンター	仲西夢サポートセンター		○	2019年2月25日
16	南大東村	南大東村	夢クラブ	○		2019年2月7日
17	南大東村	南大東村	南大東村夢クラブ	○		2019年2月7日
18	沖縄市	学習支援ひろば　くじら寺小屋	学習支援ひろば　くじら寺子屋		○	2018年10月15日
19	那覇市	宇栄原団地自治会	すこやか宇栄原っ子		○	2018年9月12日
20	沖縄市	一般社団法人おきなわジュニア科学クラブ	美ら団子		○	2018年9月1日
21	那覇市	一般社団法人琉球フィルハーモニック	ジュニアジャズオーケストラおきなわ那覇ウェスト		○	2018年8月20日
22	国頭村	国頭村役場　福祉課	スマイル☆キッズルーム	○		2018年8月17日
23	宜野座村	一般社団法人Estage（エステージ）	えーる		○	2018年8月1日
24	宮古島市	NPO法人いけま福祉支援センター	みんなのおうち		○	2018年7月30日
25	石垣市	アルファ進学スクール	子どもホッ！とステーション未来塾		○	2018年7月30日
26	石垣市	石垣市子どもセンター	石垣市子どもセンター		○	2018年7月30日
27	石垣市	まきら子どもホッと！ステーション	まきら子どもホッ！とステーション		○	2018年7月30日

No	市町村名	運営主体	居場所名	運営主体		締結年月日
				市町村	その他	
28	那覇市	公益財団法人沖縄県労働者福祉基金協会	ティーダ・わらび～教室		○	2018年7月27日
29	那覇市	那覇市社会福祉協議会	小禄北地域福祉推進会		○	2018年7月25日
30	西原町	西原町役場	わくわく教室	○		2018年7月23日
31	名護市	名護市営市場子ども食堂	名護市営市場子ども食堂		○	2018年7月7日
32	那覇市	ほのぼのプロジェクト	ほのぼのヒロバ		○	2018年6月20日
33	中城村	社会福祉法人中城社会福祉協議会	子どもの居場所　わらびぃくらぶ		○	2018年6月18日
34	沖縄市	一般社団法人子どもフードバンクKFB	子どもカフェ		○	2018年6月18日
35	北中城村	北中城村　福祉課	仲順児童館	○		2018年4月30日
36	北中城村	北中城村　福祉課	島袋児童館	○		2018年4月30日
37	沖縄市	特定非営利活動法人たのしい教育研究所	沖縄市出前児童館キッズデポ		○	2018年3月15日
38	うるま市	一般社団法人りあん	中学生の居場所つくり・子ども食堂みどり町児童センター		○	2018年2月28日
39	うるま市	一般社団法人りあん	屋慶名児童館 中・高生居場所事業「びーぐ」		○	2018年2月28日
40	宜野湾市	我如古知事会	我如古青少年育成塾「ゆーでいき家ー」		○	2018年1月9日
41	西原町	上原自治会	上原自治会子ども居場所			2017年12月11日
42	那覇市	お結び珈琲　訓	お結びキッズクラブ		○	2017年12月6日
43	那覇市	NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい	kukulu		○	2017年11月16日
44	うるま市	NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい	b＆gからふる田場		○	2017年11月16日
45	うるま市	NPO法人沖縄青少年自立援助センターちゅらゆい	うるまkukulu		○	2017年11月16日
46	大宜味村	ぶながやっ子ハウス	ぶながやっ子ハウス		○	2017年11月7日
47	多良間島	一般社団法人教育振興会	多良間村営塾		○	2017年8月17日
48	宮古島市	一般社団法人教育振興会	宮古島第3教室「サシバ」		○	2017年8月17日
49	伊平屋村	一般社団法人教育振興会	わくわくクラブ		○	2017年8月17日
50	与那原	つなひき無料学習塾	つなひき無料学習塾		○	2017年8月9日
51	八重瀬町	八重瀬町社会福祉協議会	シーちゃん　きっず食堂		○	2017年8月2日
52	糸満市	糸満がじゅまるセンター	糸満がじゅまる児童センター		○	2017年8月1日
53	豊見城市	特定非営利活動法人かなえ	子ども未来塾（かなえ）		○	2017年7月31日
54	石垣市	株式会社ゆにばいしがき	子どもホッ！とステーション		○	2017年7月28日
55	宮古島市	セレブラム教育システム株式会社	セレブラム※沖縄県推薦		○	2017年7月26日
56	宮古島市	セレブラム教育システム株式会社	学習支援教室まなびやぁ		○	2017年7月26日
57	西原町	県営坂田高層住宅自治会	県営坂田高層住宅自治会		○	2017年7月11日

No	市町村名	運営主体	居場所名	運営主体		締結年月日
				市町村	その他	
58	那覇市	安謝新都心子ども広場	安謝新都心こども広場		○	2017年7月8日
59	那覇市	那覇市母子生活支援施設センターさくら	那覇市母子生活支援ｾﾝﾀｰさくら		○	2017年7月7日
60	豊見城市	社会福祉法人豊見城市社会福祉協議会	子ども未来塾（まかぶ）		○	2017年6月26日
61	豊見城市	社会福祉法人豊見城市社会福祉協議会	子ども未来塾（とみぐすく）		○	2017年6月26日
62	豊見城市	社会福祉法人豊見城市社会福祉協議会	子ども未来塾（いらは）		○	2017年6月26日
63	南風原町	南風原町新川自治会	放課後子どもルーム		○	2017年6月16日
64	那覇市	一般社団法人ビクトリーチャーチ	子供の広場in那覇		○	2017年6月13日
65	那覇市	小学生ユイマール塾よぎ・なかいま	ユーマール塾よぎ		○	2017年6月9日
66	那覇市	小学生ユイマール塾よぎ・なかいま	ユイマール塾なかいま		○	2017年6月9日
67	宜野湾市	普天間やまがっこう	普天間やまがっこう		○	2017年5月23日
68	宮古島市	沖縄県社会福祉事業団漲水学園	漲水学園学習塾		○	2017年3月3日
69	宜野湾市	普天間3区自治会	普天間3区こども居場所		○	2017年2月22日
70	与那原	一般社団法人きっずまぁる	まぁる家よなばる		○	2017年1月22日
71	那覇市	松尾二丁目自治会	松尾2丁目自治会		○	2016年12月28日
72	浦添市	株式会社りゅうせきビジネスサービス	サポートルームわらわら（那覇工業高等学校内）※沖縄県推薦		○	2016年12月15日
73	沖縄市	株式会社りゅうせきビジネスサービス	県立学校の居場所づくり事業（美里高校）※沖縄県推薦		○	2016年12月15日
74	宜野湾市	株式会社りゅうせきビジネスサービス	県立学校の居場所づくり事業（中部商業高校）※沖縄県推薦		○	2016年12月15日
75	豊見城市	株式会社りゅうせきビジネスサービス	サポートルーム若葉（南部農林高等学校内）※沖縄県推薦		○	2016年12月15日
76	那覇市	株式会社りゅうせきビジネスサービス	県立学校の居場所づくり事業（真和志高校）※沖縄県推薦		○	2016年12月15日
77	宮古島市	NPO法人あらた	あらた		○	2016年12月13日
78	浦添市	NPO法人エンカレッジ	NPO法人エンカレッジ 浦添てだこ学習支援教室		○	2016年12月12日
79	浦添市	NPO法人エンカレッジ	NPO法人エンカレッジ 浦添てだこ第二学習支援教室		○	2016年12月12日
80	うるま市	NPO法人エンカレッジ	ゆう力家具志川教室		○	2016年12月12日
81	うるま市	NPO法人エンカレッジ	ゆう力家塾（石川教室）		○	2016年12月12日
82	うるま市	NPO法人エンカレッジ	ゆう力家塾（与勝教室）		○	2016年12月12日
83	北谷町	NPO法人エンカレッジ	NPO法人エンカレッジ　ちーたん塾		○	2016年12月12日
84	豊見城市	NPO法人エンカレッジ	NPO法人エンカレッジ豊見城教室		○	2016年12月12日
85	西原町	NPO法人エンカレッジ	エンカレッジ西原がじゅまーる教室		○	2016年12月12日
86	宮古島市	NPO法人エンカレッジ	デイゴ学習支援教室		○	2016年12月12日
87	読谷村	NPO法人エンカレッジ	エンカレッジ読谷学習支援第2教室		○	2016年12月12日

No	市町村名	運営主体	居場所名	運営主体		締結年月日
				市町村	その他	
88	那覇市	NPO法人エンカレッジ	NPO法人エンカレッジ泉崎教室		○	2016年12月12日
89	那覇市	NPO法人エンカレッジ	NPO法人エンカレッジ真和志教室		○	2016年12月12日
90	那覇市	一般社団法人UTT	地域子ども・若者プラザUTT※沖縄県推薦		○	2016年12月8日
91	読谷村	一般社団法人うちなーからはーい	JIJIKIDS		○	2016年11月11日
92	中城村	久場っ子クラブ	久場っ子クラブ		○	2016年11月11日
93	沖縄市	夢空間たんぽぽ	夢空間たんぽぽ		○	2016年11月11日
94	那覇市	一般社団法人おきなわ子育てライフサポートセンター	たのしくやろう！しゅくだい教室		○	2016年10月20日
95	那覇市	一般社団法人おきなわ子育てライフサポートセンター	すい・子ども食堂		○	2016年10月20日
96	沖縄市	NPO法人ももやま子ども食堂	ももやま子ども食堂		○	2016年10月17日
97	那覇市	R・Kアカデミー	R・Kアカデミー		○	2016年10月4日
98	南城市	社会福祉法人南城市社会福祉協議会	ほっとハウスひまわり（ひまわり児童館）		○	2016年10月4日
99	南城市	社会福祉法人南城市社会福祉協議会	ほっとハウス「がじゅまる」（當山集落センター）		○	2016年10月4日
100	浦添市	まちづくりNPOうらそえ	浦添市母子生活支援施設浦和寮		○	2016年9月16日
101	浦添市	まちづくりNPOうらそえ	浦添市立森の子児童センター		○	2016年9月16日
102	名護市	無名塾	無名塾		○	2016年9月13日
103	那覇市	ユイマール塾	ユイマール塾		○	2016年8月26日
104	南風原町	一般社団法人カナカナ	カナカナ		○	2016年7月22日
105	南風原町	認定NPO法人侍学園　スクオーラ・今人沖縄校	認定NPO法人 侍学園　スクオーラ今人　沖縄校		○	2016年7月1日
106	名護市	公立大学法人名桜大学	名護市学習支援教室 ぴゅあ第二教室		○	2016年6月1日

資料４－２

令和元年度 大学コンソーシアム沖縄 県民向け公開講座 実施状況一覧

No.	開催日	主催	大学コンソ沖縄対応	タイトル（講演テーマ）	取組・実施概要	参加者数	備考
1	2019/9/7	キリ学	冠(協賛)	アフガニスタン命の水を　～干ばつの大地に用水路を拓く《講師：中村哲》	中村 哲氏は、パキスタン北西辺境州の州都ペシャワールや東部アフガニスタンでの貧困層への医療活動と並行し、干ばつに見舞われたアフガニスタン農村復興のため、灌漑・水利事業に携われています。 現地活動DVD上映後、「アフガニスタンに命の水を ～干ばつの大地に用水路を拓く～」と題してご登壇いただきました。講演後には活発な質疑応答が行われました。	約178名	**別添「中村哲氏を偲ぶ」をご覧下さい。**
2	2019/10/12	沖国	冠(協力)	コンピューター技術の発展と可能性《講師：大山健治》	コンピュータ技術の発達について、特に画像処理やCG技術（リアルタイム処理等）の発達によってもたらされた事例を紹介し、産業への応用と新たな可能性について解説した。	26名	
3	2019/12/21	（共催）高専、日本ｱｲﾙﾗﾝﾄﾞ協会	協力	「沖縄で考える、アイルランドの民族文化 ～チェンバレン，ハーン，水と海の信仰 ～《講師：小泉 凡》	本講演は、小泉氏が理事を務める日本アイルランド協会の年次大会の一環として実施されたもので、小泉氏はラフカディオ・ハーン（小泉八雲）の曾孫であり、現在も八雲の業績についての講演会や八雲の作品の朗読会を日本国内外で開催しております。 日本アイルランド協会年次大会は本年度で27回となりますが、アイルランドの文学・歴史・文化・語学等を主題に、それぞれの研究者が研究発表やテーマ発表、シンポジウムを行う大会です。	約50名	
4	2020/1/25	沖大	冠(協賛)	ひきこもった子どもと親たち 【第一部】基調講演「全国の状況はこうなっている」 《講師：谷口 仁史》 【第二部】シンポジウム「子どもの訴えにどう応える」 シンポジスト：　松本大進 崎原旦陽 崎原盛子 コメンテーター：　谷口 仁史 コーディネーター：島村聡	最初に、沖縄大学地域研究所所長島村聡による趣旨説明がありました。次に、第一部「全国の状況はこうなっている」では、認定NPO（特定非営利活動）法人スチューデント・サポート・フェイス代表理事の谷口仁史氏から全国のひきもりについての現状及び対応などをお話しいただきました。 第二部のシンポジウム「子どもの訴えにどう応える」では、沖縄県子ども・若者みらい相談プラザsorae主任支援員で臨床心理士の松本大進氏から、沖縄県内のこれまでの現状や取り組みについて説明いただいた後、ひきこもり経験者親子の崎原旦陽氏とその母盛子氏に、実際にどのようなことで苦しみ、どのような形で状況を打開していったのかなどの経験をお話しいただきながら、松本氏には県内の支援の現状や限界を、谷口氏にはアドバイスをいただきました。 最後に、コトバグラフィッカーの室伏長子氏が、全体のまとめを行いました。	127名	
5	2020/2/2	県看	冠(協力)	人生の達人の暮らしぶり　～老いることに心を弾ませて～《講師：田場由紀》	老い方（人生100年時代のモデル高齢者）、暮らし方（80歳になったことでわかる幸せ）、生き方（要介護高齢者のできる地域貢献）、終わり方（人生の集大成は"我が家"で）について講演が行われた。 当初は、県立博物館・美術館1Ｆ講座室（80名～100名）での開催を予定していたが、受付が100人を超えたため、2階の講堂に講座場所を移し、参加者全員入場（約230名）してもらうことができ、大盛況となった。	約230名	
6	2020/2/22	OIST	協力	ビジネス革新 変化を創ろう ～科学、技術、ダイバーシティを通じて～《講師：菅 大介》	飲料メーカーであるチェリオコーポレーションにおいて国内の多様性豊かな社会づくりの推進に力を入れている菅大介専務取締役をお招きし、科学、技術、人間の価値観を通じてビジネスを進化させるための様々なアプローチの仕方などについてご講演いただきました。 国の内外を問わず全ての方々に興味深い内容であったので、同時通訳対応などもっと広く宣伝できていればなお良かったとの声がありました。	52名（外国人9名含む。同時通訳にて実施）	

資料4－3

令和元年度 大学コンソーシアム沖縄 FD・SD研修 実施状況一覧

No.	開催日	主催	大学コンソ沖縄対応	タイトル（講演テーマ）	取組・実施概要	参加者数	備考
1	2019/7/26	琉大	協力	消費税増税改正に伴う研修会	令和元年１０月１日より消費税率が１０％と引き上げられることとなっており、今回の消費税の引き上げにおいては、軽減税率対応や経過措置対応等があり、本研修会においてその点について研修を行った。	9機関 100名	
2	2019/9/3	琉大	協力	情報セキュリティーインシデント対応研修会　～ボードゲーム研修会～	セキュリティインシデントに対する問題意識をインシデント対応メンバー間で共有インシデント発生時の対処の優先順位付け（トリアージ）を体験する。自組織のセキュリティの課題に気付くことを狙いとして実施した。	7機関 15名	
3	2019/12/14	琉大	協力	数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム《講師：真嘉比 愛》	シンポジウムの基調講演では「大学に期待する数理データサイエンス人材」という題目で、株式会社ちゅらデータの真嘉比 愛 取締役社長による講話がありました。企業が大学生に求めるデータを取り扱う上での基本的なリテラシーや、データサイエンスの現状と様々な企業での活用事例、今後どのように発展していくかなどをお話していただきました。 また、琉球大学教員による事業概要および本学の協力校としての取り組みの説明や「データサイエンス教育のポイント」として講義の一例が紹介されました。さらに本事業の協力校である、宮崎大学の取り組みについて、宮崎大学基礎教養部　野見山将太　特別助教より「数理・データサイエンスを活かした地域産業人材の育成に向けたカリキュラム・教材の開発」の題で、COC+の取り組みと数理・データサイエンス教育強化事業への展望をご紹介いただきました。	7機関 37名	
4	2020/1/30	OIST	協力	SINET（学術情報ネットワーク）個別ミーティング説明会《講師：国立大学情報学研究所（NII）》	各大学よりSINET担当者へ沖縄地区特有の課題（県内にDC<データセンター>が１つしかない）を共有し、次期SINETではDCの冗長構成がとれるように提言した。 最終的に今年末に予算が確定するため、そのときに沖縄地区において拡張DCを導入するかどうかが決定する。併せて、沖縄地区各大学の情報基盤の整備及ネットワーク等の現状や課題についての情報交換等を実施し、他大学からアドバイスや解決方法などの有意義な意見交換が図れた。	8機関 25名	
5	2020/2/14	大学ｺﾝｿ	名桜大提案協力	アメリカを抱きしめて　～日本人アメリカニストの軌跡～《講師：吉原真里》	ハワイ大学教授で名桜大学招聘客員教授の吉原先生が、アメリカと日本、そして英語と日本語という二つの世界を往還する知性そして感性、さらにこれまで歩んでこられた軌跡について、聞き手 喜納琉球大学教授との対談形式による講演が行われた。 若手の教員、学生も多く参加し、アンケートでは「生き方と研究の関係を丁寧に説明してもらい自分のこれからの考え方の参考にしたい」などという感想があった。	4機関 40名	
6	2020/3/6	琉大	協力	論文発表の先にあるもの～研究成果の地域展開～《講師：早坂 信哉》	毎年多数の研究成果が学会や学術論文で発表されているが、研究成果は研究者の世界だけで共有されるだけではなく、広く地域社会に発信されることが求められている。 「温泉博士」「お風呂博士」の愛称で多くのメディアに紹介されている東京都市大学人間科学部教授の早坂信哉氏に、研究テーマである「入浴・温泉」を通じた多くの自治体・企業等との地域連携の実績を基に、研究成果を地域社会に展開する思考法や手法・成功例などについてご講演いただいた。	2機関 35名	

資料４－４

延期のお知らせ

３月８日（日）
県内大学入試説明会は延期

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、３月８日（日）に開催を予定しておりました沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会及び大学コンソーシアム沖縄共催の「県内大学入試説明会～親子のための進路研修会～」を延期させていただきます。

なお、開催の時期については、沖縄県高等学校ＰＴＡ連合会及び県内大学との調整により、お知らせいたします。

【お問い合わせ先】
大学コンソーシアム沖縄事務局
〒903-0213
沖縄県中頭郡西原町字千原1
(TEL)098-895-8037
(E-mail)chikikakui@acs.u-ryukyu.ac.jp

資 料5

決　算　報　告　書

（第6期）

自　平成31年4月1日

至　令和2年3月31日

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄

貸借対照表

令和　2年　3月 31日 現在

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄

（単位：円）

科　　目	実施事業会計		その他事業会計		法人会計	内部取引等消去	合計
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業の寄附】	研究交流ﾌｫｰﾗﾑ事業【県補助事業】	子供の貧困対策事業【県委託事業】	知的・産業ｸﾗｽﾀｰ事業【県委託事業】			
Ⅰ　資産の部							
1. 流動資産							
現金預金	7,149,975	0	8,460,413	0	1,855,963	0	17,466,351
未収金	0	0	5,066,163	0	0	0	5,066,163
他会計短期貸付金	8,934,371	0	3	0	0	△ 8,934,374	0
立替金	0	0	4,956	0	0	0	4,956
流動資産合計	16,084,346	0	13,531,535	0	1,855,963	△ 8,934,374	22,537,470
2. 固定資産							
(1)基本財産							
基本財産合計	0	0	0	0	0	0	0
(2)特定資産							
特定資産合計	0	0	0	0	0	0	0
(3)その他固定資産							
その他固定資産合計	0	0	0	0	0	0	0
固定資産合計	0	0	0	0	0	0	0
資産合計	16,084,346	0	13,531,535	0	1,855,963	△ 8,934,374	22,537,470
Ⅱ　負債の部							
1. 流動負債							
未払金	630,230	0	457,403	0	2,200	0	1,089,833
未払費用	0	0	1,001,536	0	0	0	1,001,536
未払消費税等	0	0	692,000	0	0	0	692,000
預り金	0	0	35,873	0	0	0	35,873
未払法人税等	0	0	587,200	0	0	0	587,200
他会計短期借入金	0	0	8,934,371	0	3	△ 8,934,374	0
流動負債合計	630,230	0	11,708,383	0	2,203	△ 8,934,374	3,406,442
2. 固定負債							
固定負債合計	0	0	0	0	0	0	0
負債合計	630,230	0	11,708,383	0	2,203	△ 8,934,374	3,406,442
Ⅲ　正味財産の部							
1. 指定正味財産							
2. 一般正味財産	15,454,116	0	1,823,152	0	1,853,760	0	19,131,028
正味財産合計	15,454,116	0	1,823,152	0	1,853,760	0	19,131,028
負債及び正味財産合計	16,084,346	0	13,531,535	0	1,855,963	△ 8,934,374	22,537,470

収支計算書内訳表

平成 31年 4月 1日 から令和 2年 3月 31日 まで

一般社団法人 大学コンソーシアム沖縄

（単位：円）

科　目	実施事業会計		その他事業会計		法人会計	内部取引等消去	合計
	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ センター事業 【企業の寄附】	研究交流ﾌｫｰﾗﾑ事業 【県補助事業】	子供の貧困 対策事業 【県委託事業】	知的・産業 ｸﾗｽﾀｰ事業 【県委託事業】			
Ⅰ 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
①会費収入							
正会員会費収入	0	0	0	0	1,300,000	0	1,300,000
②事業収入							
事業受託収入	0	0	27,066,163	0	0	0	27,066,163
③寄付金収入							
寄付金収入	6,440,000	0	0	0	213,989	0	6,653,989
④雑収入							
受取利息収入	52	0	0	0	44	0	96
雑収入	0	0	704	0	0	0	704
雑収入計	52	0	704	0	44	0	800
事業活動収入計	6,440,052	0	27,066,867	0	1,514,033	0	35,020,952
2. 事業活動支出							
①事業費支出							
給料手当支出	0	0	10,293,477	0	0	0	10,293,477
賞与支出	0	0	2,664,760	0	0	0	2,664,760
法定福利費支出	0	0	1,975,176	0	0	0	1,975,176
福利厚生費支出	0	0	0	0	28,959	0	28,959
旅費交通費支出	914,100	0	5,025,360	0	0	0	5,939,460
通信運搬費支出	0	0	338,341	0	2,053	0	340,394
消耗品費支出	0	0	414,422	0	0	0	414,422
賃借料支出	0	0	622,712	0	0	0	622,712
保険料支出	0	0	403,300	0	0	0	403,300
諸謝金支出	10,834,560	0	197,780	0	0	0	11,032,340
租税公課支出	0	0	1,230,700	0	10,960	0	1,241,660
負担金支出	0	0	0	0	30,000	0	30,000
委託費支出	0	0	374,000	0	194,720	0	568,720
企画イベント費支出	0	0	8,800	0	0	0	8,800
使用料支出	0	0	668,638	0	0	0	668,638
間接経費支出	0	0	504,617	0	0	0	504,617
雑支出	168,900	0	2,048	0	0	0	170,948
事業費支出計	11,917,560	0	24,724,131	0	266,692	0	36,908,383
②管理費支出							
会議費支出	0	0	0	0	7,314	0	7,314
通信運搬費支出	0	0	0	0	2,700	0	2,700
諸謝金支出	0	0	0	0	22,500	0	22,500
租税公課支出	0	0	0	0	200	0	200
雑支出	0	0	0	0	19,928	0	19,928
管理費支出計	0	0	0	0	52,642	0	52,642
③その他の支出							
法人税、住民税及び事業税	0	0	587,200	0	0	0	587,200
事業活動支出計	11,917,560	0	25,311,331	0	319,334	0	37,548,225
事業活動収支差額	△ 5,477,508	0	1,755,536	0	1,194,699	0	△ 2,527,273
Ⅱ 投資活動収支の部							
1. 投資活動収入							
①特定資産取崩収入							
特定資産取崩収入	1,083,000	0	0	0	0	0	1,083,000
投資活動収入計	1,083,000	0	0	0	0	0	1,083,000
2. 投資活動支出							
投資活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収支差額	1,083,000	0	0	0	0	0	1,083,000
Ⅲ 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出							
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
Ⅳ 他会計振替額	0	831,746	0	△ 400,035	△ 431,711	0	0
当期収支差額	△ 4,394,508	831,746	1,755,536	△ 400,035	762,988	0	△ 1,444,273
前期繰越収支差額	19,848,624	△ 831,746	67,616	400,035	1,090,772	0	20,575,301
次期繰越収支差額	15,454,116	0	1,823,152	0	1,853,760	0	19,131,028

資料６

令和２年度 事業計画（案）について

※運営委員会において、下記の前年度実施事業の加筆訂正見消し案を確認の上、社員総会へ令和２年度事業計画（案）として諮りたい。

〇令和２年度 実施事業（案）

１　グローバル人材育成事業

① トビタテ！留学 JAPAN　地域人材コース

沖縄産学官協働人財育成円卓会議を中心に実施されるトビタテ！留学 JAPAN　地域人材コースに積極的に協力していく。

② 世界ウチナーンチュ学生サミット

名桜大学が主体となり、実施する世界ウチナーンチュ学生サミットに協力していく。

③ キャリア教育（インターンシップ）

沖縄工業高等専門学校が実施する業界研究会や沖縄科学技術大学院大学が実施するインターンシップに他の大学等の学生が参加できるよう取り組む。

④ 単位互換

~~令和２年度までに制度設計を行う。~~

数理・データサイエンス教育普及展開事業の実施状況を踏まえて、制度設計に取組む。

２　地域課題対応事業

子どもの居場所学生ボランティアセンター

~~引き続き実施~~

新型コロナウィルス感染症拡大防止の為の対策を行いつつ、引き続き事業を実施する。

３　FD・SD 事業

① 教育の質保証に関する合同ＦＤ

② 大学職員合同研修

~~検討委員会を設置し、検討を開始~~

新型コロナウィルス感染症拡大防止の為の対策を行いつつ、引き続き事業を実施する。

４　生涯学習事業

県民向け公開講座

~~各大学持ち回りにより実施~~

新型コロナウィルス感染症拡大防止の為の対策を行いつつ、引き続き事業を実施する。

５　その他の事業

合同学生募集活動

実行委員会を開催し、合同入試説明会を開催する。

※各大学・短期大学・高等専門学校ができる範囲内でできる事業を実施していく。

資料７

令和２年度予算（案）

（令和2年4月1日から令和3年3月31日）

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄　　（単位：円）

会計区分	法人会計	実施事業会計		その他の事業会計
事業名	法人本部	法人本部	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附金】	沖縄子供の貧困対策【県委託事業】
科目	予算額	予算額	予算額	予算額
Ⅰ　事業活動支出の部				
事業活動収入				
会費収入	700,000	600,000		
正会員会費収入	700,000	600,000		
受取補助金等				30,197,599
受取国庫補助金				30,197,599
寄附金収入			6,000,000	
寄附金収入			6,000,000	
前年度繰越額一部取崩額			4,900,000	
事業活動収入計	700,000	600,000	10,900,000	30,197,599
Ⅱ　事業活動支出の部				
事業活動支出				
事業費	0	600,000	10,900,000	27,452,437
給料手当			0	10,714,000
賞与			0	2,565,054
法定福利費			0	2,215,400
諸謝金			10,900,000	231,000
旅費交通費			0	7,921,900
通信運搬費			0	427,680
消耗品費			0	260,663
企画ｲﾍﾞﾝﾄ費		600000	0	220,000
使用料			0	783,640
賃借料			0	1,060,400
保険料			0	610,500
雑費			0	442,200
管理費	700,000		0	0
会議費	10,000		0	0
旅費交通費	150,000			660,000
通信運搬費	5,000		0	0
消耗品費	8,600		0	0
使用料	26,400			
印刷製本費	88,000		0	0
租税公課	11,000		0	0
会費負担金	30,000		0	0
役務費	371,000		0	0
法人税等	0		0	0
間接経費	0		0	2,745,162
Ⅲ 事業活動支出計（税込み）	700,000	600,000	10,900,000	30,197,599

令和２年度予算（案）

（令和2年4月1日から令和3年3月31日）

一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄　　（単位：円）

会計区分	法人会計	公益目的事業会計		実施事業会計
事業名	法人本部	法人本部	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附金】	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱｾﾝﾀｰ事業【企業から寄附金】
科目	予算額	予算額	予算額	予算額
Ⅰ　事業活動支出の部				
事業活動収入				
会費収入	700,000	600,000		
正会員会費収入	700,000	600,000		
受託事業収入				30,197,599
受託事業収入				30,197,599
寄附金収入			6,000,000	
寄附金収入			6,000,000	
前年度繰越額一部取崩額			4,900,000	
事業活動収入計	700,000	600,000	10,900,000	30,197,599
Ⅱ　事業活動支出の部				
事業活動支出				
事業費	0	600,000	10,900,000	27,452,437
給料手当	0	0	0	10,714,000
雇用職員A				286,000
雇用職員B				3,564,000
雇用職員C				3,036,000
雇用職員D				2,112,000
雇用職員E				1,716,000
賞与	0	0	0	2,565,054
雇用職員B				1,152,624
雇用職員C				686,665
雇用職員D				725,765
法定福利費	0	0	0	2,215,400
法定福利費:雇用職員A(事業主負担分)				44,000
法定福利費:雇用職員B(事業主負担分)				752,400
法定福利費:雇用職員C(事業主負担分)				554,400
法定福利費:雇用職員D(事業主負担分)				448,800
法定福利費:雇用職員E(事業主負担分)				250,800
法定福利費:労働保険料(事業主負担分)				165,000
諸謝金	0		10,900,000	231,000
ﾒﾝﾀｰ講師謝金				66,000
講師(事前研修)謝金				132,000
研修会講師謝金				33,000
学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ			10,900,000	
旅費交通費	0		0	7,921,900
職員旅費支出				660,000
旅費交通費(ｾﾝﾀｰ長・副ｾﾝﾀｰ長・事務局長)				220,000
学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ旅費支出（定期派遣）				4,450,600
講師等招聘旅費支出				220,000
学生ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ離島・僻地派遣旅費（環境税含む）				2,371,300
通信運搬費	0		0	427,680
郵送料				132,000
光回線・設置使用料				118,800
携帯電話使用料				132,000
ﾌﾟﾛﾊﾞｲﾀﾞｰ利用料				44,880
消耗品費	0		0	260,663
事務用品				220,000
会議費				3,080
新聞雑誌費				37,583
企画ｲﾍﾞﾝﾄ費	0	600,000	0	220,000
企画ｲﾍﾞﾝﾄ費（ｺﾝｿ主催：入試説明会、公開講座、FD・.SD)	0	600,000		220,000
使用料	0	0	0	783,640
事務室借料				55,000
駐車場借料				55,000
光熱水費				118,800
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ保守管理料				26,400
研修会会場借料				55,000
沖縄自動車道利用料				16,720
管理ｼｽﾃﾑ利用料				396,000
燃料費				52,800
駐車料				7,920
賃借料	0	0	0	1,060,400
複合機ﾘｰｽ料				224,400
自動車(事業用車両)				396,000
ﾚﾝﾀｶｰ料(一時賃借:出張時)				110,000
ﾃﾞｽｸﾄｯﾌﾟPC3台、ﾉｰﾄPC1台				330,000
保険料	0	0	0	610,500
学生保険料				610,500
雑費	0	0	0	442,200
振込手数料				2,200
WEB管理システム改修費				440,000
管理費	700,000		0	0
会議費	10,000		0	0
総会・運営委員会	10,000			
旅費交通費	150,000		0	660,000
職員旅費支出	150,000			660,000
通信運搬費	5,000		0	0
切手	5,000			
消耗品費	8,600		0	0
事務用品	8,600			
使用料	26,400		0	0
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ保守管理料	26,400			
印刷製本費	88,000		0	0
リフレット作成費	88,000			
租税公課	11,000		0	0
印紙等	11,000			
会費負担金	30,000		0	0
全国コンソーシアム協議会会費	30,000			
役務費（法人申告・確定申告等委託）	371,000		0	0
法人税申告書作成料	231,000			
登記変更手続き	40,000			
テープ起こし（総会議事録・２回分）	100,000			
法人税等	0		0	0
法人税、道府県民税・市町村民税	0			
償還費	0		0	0
前年度事業費超過負担に係る償還費				
間接経費	0		0	2,745,162
間接経費				
Ⅲ 事業活動支出計（税込み）	700,000	600,000	10,900,000	30,197,599

資料８

【ご寄附頂いた皆様（ロゴ等五十音順）】

沖縄経済同友会
沖縄県酒造組合
沖縄法政学会
沖縄電力
沖縄ヤマト運輸
海邦銀行
金秀グループ
株式会社國場組
屋部土建
ゆがふホールディングス
オリオンビール奨学財団
コザ信用金庫
サンエー
JCC
J・TAP 協力会
全保連株式会社
大伸 株式会社
大同火災
タピック
寺田克彦(テラ・ウェフ・クリエイト)
三井住友海上
MUGENN
RyukyuInteractive
琉球海運株式会社
琉球銀行
琉球新報
琉球セメント
琉球宇温基金
りゅうせき

大学コンソーシアム沖縄事務局

ＴＥＬ　０９８－８９５－８９９８
ＦＡＸ　０９８－８９５－８１８５
E-mail　chikikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

University Consortium Okinawa

一般社団法人
大学コンソーシアム沖縄

加盟校一覧

琉球大学 University of the Ryukyus
沖縄キリスト教短期大学
沖縄キリスト教学院大学
沖縄大学
沖縄女子短期大学
沖縄国際大学 Okinawa International University
沖縄県立芸術大学
公立大学法人 名桜大学 MEIO UNIVERSITY
沖縄県立看護大学
沖縄工業高等専門学校
OIST 沖縄科学技術大学院大学

☞ 大学コンソーシアム沖縄のロゴマークは沖縄県立芸術大学 赤嶺雅教授の製作・提供によるもの

趣旨・目的　～連携と協働で地域へ貢献～

今、ICT の急速な進展と本格的な人口減少は、既存の産業構造、就業構造、さらには人々の生活を大きく変えはじめ、人生 100 年時代が到来しています。ひとり一人の持つ力や才能の発揮を後押しする様々な取組や制度の創出が喫緊となり、**幅広い視野や国際感覚を持った人材の育成**、そして、**地方創生の推進拠点としての社会人教育、地域課題を解決**する複合的な学術連携や産学官連携が、ますます求められるようになっています。

このような中、　「一般社団法人　大学コンソーシアム沖縄」は、沖縄県内の大学が、相互に見学の精神を尊重しつつ、有機的連携により教育研究を一層充実発展させ、また産学官の連携により地域社会の活性化と発展に貢献することを目的として、平成 26 年８月８日に設立されました。

本法人では、次のような事業を定款に明記して、**県内の１１の高等教育機関**がそれぞれの特長や強み、個性を活かした教育の質向上に努めながら、時には直接的に、時にはこれらを複合的に関連させた実施事業を編成し、協働して取り組んでいます。

これからも本法人では、**沖縄の多様性・地域性・国際性を念頭に**、時代の変化や地域の皆さまのニーズに対応しつつ、**地域の発展を目指して、自治体や産業界等と協働して大学連携機関らしい事業を推進**してまいります。

1．グローバル人材の育成
2．単位互換
3．学生間の連携・交流
4．共同研究
5．教職員の研修、交流及び情報交換
6．小中高大連携活動
7．公開講座（県民フォーラム・出前講座）
8．産学官連携
9．各種の地域社会貢献
10．その他前各号に掲げる事業に附帯または関連する事業

大学コンソーシアム沖縄の主な実施事業

■グローバル人材育成事業
■地域課題対応事業
■FD・SD 事業
■生涯学習事業
■その他事業

これまでの活動実績

■平成 26 年度

1　第 1 回シンポジウム 2014
2　第 1 回沖縄学生サミット 2014
3　総会・運営委員会

■平成 27 年度

1　第 2 回シンポジウム 2015
2　第 2 回沖縄学生サミット 2015
3　県民向け公開講座（各大学持ち回り）
4　平成 27 年度子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）
5　総会・運営委員会

■平成 28 年度

1　第 3 回シンポジウム 2016(写真)
2　第 3 回沖縄学生サミット 2016
3　平成 28 年度県民向け公開講座（各大学持ち回り）
4　平成 28 年度子供科学人材育成事業（中学生及び高校生プロジェクト）
5　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
6　総会・運営委員会



■平成 29 年度

1　第 14 回全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム
2　平成 29 年度県民向け公開講座（各大学持ち回り）
3　平成 28 年度子供科学人材育成事業（中学生及び高校性プロジェクト）
4　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
5　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）
6　グローバル・ピース・ダイアログ沖縄(写真)
7　中国大学生友好交流訪日団の学生との昼食交流会
8　総会・運営委員会



■平成 30 年度

1　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
2　知的・産業クラスター支援ネットワーク強化事業（大学等研究者の学外連携促進）
3　総会・運営委員会

■平成 31 年度（令和元年度）

1　子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業（沖縄子供の貧困緊急対策事業）
2　平成 31 年度県民向け公開講座
3　ＦＤ・ＳＤ事業
4　総会・運営委員会

◆子どもの居場所学生ボランティアコーディネート事業

本事業は、「沖縄子供の貧困緊急対策事業」の一環として、内閣府が沖縄県に補助金を交付し、沖縄県が大学コンソーシアム沖縄に事業を委託する形をとっております。具体的活動としては、当法人が子どもの居場所学生ボランティアセンターを運営し、県内の子どもの居場所とボランティアに参加したい学生のマッチングを行っています。学生に身近な「お兄さん、お姉さん」的な存在になってもらい、子どもたち一人一人に寄り添ったサポートを行っていくことで、子どもの居場所への安心感が高まるとともに、子どもの自己肯定感が向上することを目指しています。

●子どもたちへのプラスの影響●

子どもの居場所へのアンケートでは、子どもたちが学生を「お兄さん、お姉さんのよう慕っていた」、学生と「会う日を楽しみにしていた」という各項目に対して 7 割がそうであったと答えています（2019 年度アンケートより）。その他にも「子どもたちの安心感が増えた」などの声をいただいております。

●寄附について●

皆さまの温かい寄附が学生さんの謝金になります。生活費や学費を自身で捻出する必要がある学生もおり、学生からは「謝金のおかげで安心して活動できる学生がたくさんいる」との声があります。ボランティアの経験が学生のコミュニケーション能力や将来像に良い影響を与えており、子どもだけではなく学生を含めて沖縄の人材育成へ貢献する事業となっております。
ご寄付を検討されている方は以下のホームページをご覧下さい。
https://www.consortium-okinawa.or.jp/kg-vc/

●問い合わせ先●
ＴＥＬ　０９８－８９５－１９３９
ＦＡＸ　０９８－８９５－１９４０
E-mail　kg-vc@consortium-okinawa.or.jp
住所　沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地 琉球大学本部棟 1 階



◆沖縄からアジアへトビタテ！留学 JAPAN プロジェクト

本事業は、将来の沖縄の経済社会を担い、グローバルに活躍する意欲と能力のある若者たちが積極的に海外留学できるよう支援することを目的に国からの 3 割（当初 5 割）の助成と残り 7 割を県内企業等からの支援により実施されている。

●これまでの派遣実績　：　H27～H31(R1)の 5 年間で 40 名（10 ヶ国）
派遣先：ベトナム(8)、シンガポール（8)、香港(7)、台湾(5)、マレーシア(4)、フィリッピン(4)、インドネシア(1)、カンボジア(1)、上海(1) 、大韓民国(1)。

●令和元年 9 月 20 日壮行会、令和 2 年 2 月 7 日報告会を実施し、ご寄附頂いた企業様、経済同友会等の経済団体様、県など公共団体が参加されています。

●参加した学生の声：「留学を通して、発言すること、行動すること、継続することが大切であると学びました。これからも自分のゴールに向かって挑戦し続けます」
「グローバルの要素を取り入れつつ、沖縄の発展に貢献できる人材になりたい」

●寄附企業様の声：
「若者が目を輝かせていると嬉しく頼もしく思う」、
「人材育成は一番の要、依存から自立を考える時、彼らの力が必要」

ご寄付を検討されている方は次の URL をご覧下さい。

●問い合わせ先● https://www.tobitateokinawa.com/
ＴＥＬ　０９８－８９５－８０３０



資料９

2020.5.27現在

大学コンソーシアム沖縄加盟校
おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会参加状況

（単位：人）

機関名	区分		合計
	教員	事務	
沖縄キリスト教学院大学 ・沖縄キリスト教短期大学	2	1	3
沖縄大学	2	0	2
沖縄女子短期大学	5	2	7
沖縄国際大学	4	0	4
沖縄県立芸術大学	0	0	0
名桜大学	1	0	1
沖縄県立看護大学	0	0	0
沖高工業高等専門学校	2	0	2
沖縄科学技術大学院大学	1	1	2
琉球大学	13	4	17
小計	30	8	38
企業・一般	3		3
合計			41

琉大教第１０３号
令和２年３月１１日

沖縄県内高等教育機関　御中

国立大学法人琉球大学
グローバル教育支援機構

おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会の御案内

拝啓　時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素から、本学の教育研究、大学運営に関しまして深いご理解とご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、沖縄県内での高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし、おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会（以下「連絡会」という。）を設置いたしました。

この連絡会は、連絡会の目的や活動に賛同頂ける沖縄県内高等教育機関に所属する個人及び団体で構成することとしており、広く御案内をさせて頂きます。

参加をご希望される場合は、別添入会申込書に必要事項をご記入の上、琉球大学学生部教育支援課まで送付願います。

敬具

「大学の数理・データ教育強化方策について（H28.12　数理及びデータサイエンス教育の強化に関する懇談会　文部科学省）」においては、「超スマート社会」では、広範囲かつ目的に整合したデータの取得を前提として、それらのデータに内在する本質的構造を見極め、数理的思考に基づいて解析・問題解決を行う能力、データサイエンスを活用して新たな価値を生み出し、有用なシステム構築につなげる能力が求められるとし、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成が必須とされ、社会に価値やサービスを生み出すという目的に合致した大学教育システムの構築が必要であるとされています。

文部科学省では、数理・データサイエンス教育の全国展開を行うため、文系理系問わない全学的な数理・データサイエンス教育を実施・普及展開するための拠点校・協力校の設置を行っており、本学も平成 31 年度から協力校として選定され 、数理・データサイエンス教育強化事業の推進に取り組んでいるところです。

〈問い合わせ先〉
琉球大学学生部 教育支援課 教育企画係
Mail kykikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
Tel:098-895-8124（内線 2853）

おきなわ数理･データサイエンス教育普及連絡会入会申込書

国立大学法人琉球大学
グローバル教育支援機構　御中

　おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会の趣旨に賛同し、下記のとおり入会を申し込みます。

申　込　日	令和　　年　　月　　日
会 員 種 別	個人　・　団体
団体名（氏名）	
住所（所在地）	〒　　－
担当者氏名 （団体会員のみ）	
電　　話	
メール	

送付先：琉球大学学生部 教育支援課 教育企画係
Mail kykikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp
Fax　098-895-8850

おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会要項

（令和元年 12 月 14 日
制　　定）

（設置）

第１条　沖縄県内の高等教育機関における数理・データサイエンス教育推進を目的とし、おきなわ数理・データサイエンス教育普及連絡会（以下「連絡会」という。）を置く。

（用語の定義）

第２条　この要項において用いられる主な用語の定義は、次に定めるところによる。

（１）数理・データサイエンス教育

平成 28 年 12 月に文部科学省で取りまとめられた「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」に含まれる、数理的思考力とデータ分析・活用能力を持つ人材の育成に向けた大学教育システムのことをいう。

（２）数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム

平成 29 年度に、数理・データサイエンスを中心とした全学的・組織的な教育を行うセンターを整備して，各大学内での数理・データサイエンス教育の充実に努めるだけでなく、全国の大学に取組成果の波及を図るため、地域や分野における拠点として、他大学の数理・データサイエンス教育の強化に貢献するために整備された拠点校（北海道大学，東京大学，滋賀大学，京都大学，大阪大学，九州大学）で形成されるコンソーシアムのことをいう。

（活動）

第３条　連絡会は数理・データサイエンス教育に関する以下の事項について、活動を行う。

（１）情報共有

①　数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムの検討内容及び成果物等について

②　実践事例や授業コンテンツ等について

③　カリキュラム設計について

④　ＦＤ活動について

（２）前項に掲げるものの他、数理・データサイエンス教育推進に関すること。

（会員）

第４条　連絡会は、連絡会の目的や活動に賛同する沖縄県内高等教育機関に所属する個人及び団体をもって構成する。

（世話人会）

第５条　連絡会の運営のために、参加する会員のうち若干人の世話人を選任し、世話人会を構成する。

２　世話人の選任は、会員の互選により決定する。

（庶務）

第６条　連絡会の庶務は、国立大学法人琉球大学学生部教育支援課において処理する。

（雑則）

第７条　この要項に定めるもののほか、連絡会の運営に関し必要な事項は別に定める。

（改廃）

第８条　この要項の改廃は、会員の合議により行う。

附 則

この要項は，令和元年 12 月 14 日から実施する。

参考

2020年2月27日（木曜日）
大学コンソーシアム沖縄社員総会

事業概要・本学の取り組み

「未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・データサイエンス教育普及展開事業」

琉球大学

各ブロックの担当地域および 担当拠点校、協力校について

	ブロック名	担当する都道府県	大学数	拠点校	協力校
	北海道・東北	北海道(38), 青森(10), 岩手(6), 宮城(14), 秋田(7), 山形(6), 福島(8)	89校	北海道大学	北見工業大学, 東北大学 山形大学
	関東・首都圏	茨城(10), 栃木(9), 群馬(14), 埼玉(28), 千葉(27), 東京 (138), 神奈川(30), 山梨(7)	263校	東京大学	筑波大学, 宇都宮大学 群馬大学, 千葉大学 お茶の水女子大学
	中部・東海	新潟(19), 富山(5), 石川(13), 福井(6), 長野(10), 岐阜(12), 静岡(12), 愛知(51)	128校	滋賀大学	新潟大学, 長岡技術科学大学 静岡大学, 名古屋大学 豊橋技術科学大学
	近畿	三重(7), 滋賀(8), 京都(34), 大阪(55), 兵庫(37), 奈良(11), 和歌山(3)	155 校	京都大学 大阪大学 滋賀大学	神戸大学
	中国・四国	鳥取(3), 島根(2), 岡山(17), 広島(20), 山口(10), 徳島(4), 香川(4), 愛媛(5), 高知(3)	68校	大阪大学	島根大学, 岡山大学 広島大学, 愛媛大学
	九州・沖縄	福岡(34), 佐賀(2), 長崎(8), 熊本(9), 大分(5), 宮崎(7), 鹿児島(6), 沖縄(8)	79校	九州大学	宮崎大学, 琉球大学

データサイエンス取組の経緯と事業の概要

取組の経緯

以前より各学部の講義・演習で実施（バラバラに）

▽

データサイエンス人材育成の全学的強化に向け、学内の課題整理・答申

▽

教員ポスト戦略的再配分データサイエンスポストを２学部に配分

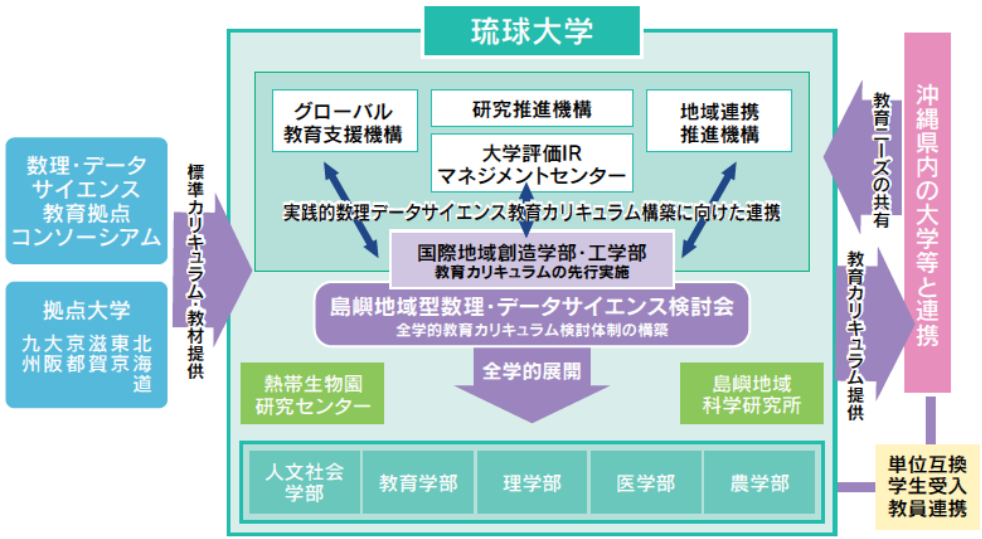
▽

協力校申請

事業の概要

組織（プロジェクト）の目的と構成

事業の実現に向け、数学及び統計学、その知識を応用した実証分析やデータ解析に精通する教員（国際地域創造学部や工学部をはじめ、様々な学内組織に属する教員）を中心にカリキュラム実施を担うとともに、全学的展開を進めるにあたって学内に「島嶼地域型数理・データサイエンス検討会（仮称）」を設置し、教育研究組織のみならず、全学的運営組織（グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構）及び大学評価IRマネジメントセンター等との学内連携により、様々な領域での教育カリキュラムの充実を図る。また、県内大学等と連携しニーズに根差した教育プログラムの充実を図るとともに、一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センターとも連携し産業課題ニーズの教育プログラムへの反映を行い、全県的な産学官連携体制のもと推進する。



取組概要

- 拠点大学の開発する標準カリキュラム及びオンライン教材を活用しつつ、本学の置かれた島嶼地域の地理的特性を踏まえ、地域課題解決・新産業創出を見据えた実践的かつ特色ある数理・データサイエンス教育を実施し、高度の専門知識、応用能力、課題解決能力を有する人材、地域社会や国際社会で活躍し、その発展に貢献できる人材を育成するため、国際地域創造学部及び工学部を中核とし、グローバル教育支援機構、研究推進機構、地域連携推進機構、大学評価IRマネジメントセンターと連携した実践的教育モデルを構築する。さらに、沖縄県内の高等教育機関と連携し、「島嶼地域型数理・データサイエンス教育モデル」の県内機関への展開を推進する。

未来価値創造に向けた島嶼地域型数理・データサイエンス教育普及展開事業　工程表

法人番号　82
法人名　琉球大学

KPI	2019年度	2020年度	2021年度以降	波及効果
全体計画	● 拠点校、数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムとの連携 ● 島嶼地域型データサイエンス教育カリキュラム構築	● 教育カリキュラムの全学的展開 ● 大学コンソーシアム沖縄との連携	● 島嶼地域型数理データサイエンス教育の普及展開	◆ 地域における数理データサイエンス教育拠点構築へ ◆ 小・中・高との連携による一貫型データサイエンス人材育成システムの構築 ※JST事業との融合 ◆ データサイエンスによる地域課題解決・新産業創出を担う人材の輩出 ※社会人向け人材育成システムとの連携
島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数（自大学）　300名	● 拠点校連携(標準カリキュラム導入等) ● 国際地域創造学部(H30改組）による先行導入 ● 島嶼地域型数理・データサイエンス検討会(仮称)の立ち上げ	● 島嶼地域型数理・データサイエンス教育カリキュラム全学的展開 ● カリキュラム内容の検証	● 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムへの反映 ● 同コンソーシアムと連携した展開	
普及連携機関数(大学コンソーシアム沖縄との連携)　8機関	● 島嶼型データサイエンス協議会(仮称)の立ち上げ	● 各機関における数理・データサイエンス教育の実態・ニーズ調査 ● 個別プログラムの構築 ● コンソーシアムへの協力依頼	● 沖縄県内での教育プログラム普及 ● 連携機関との協力によるプログラム検証・充実の推進	
島嶼地域型数理・データサイエンス教育履修学生数（連携大学）　500名		● 各機関における教育プログラム提供体制の構築	● 島嶼地域型数理・データサイエンス教育プログラムの提供	
普及連携機関との単位互換制度等の構築　3件		● 県内外の大学との単位互換に関する大学（部局）間協定締結に向けた準備	● 普及連携機関の教育ニーズ・カリキュラムを踏まえた単位互換制度構築 ● 教育カリキュラムの展開	

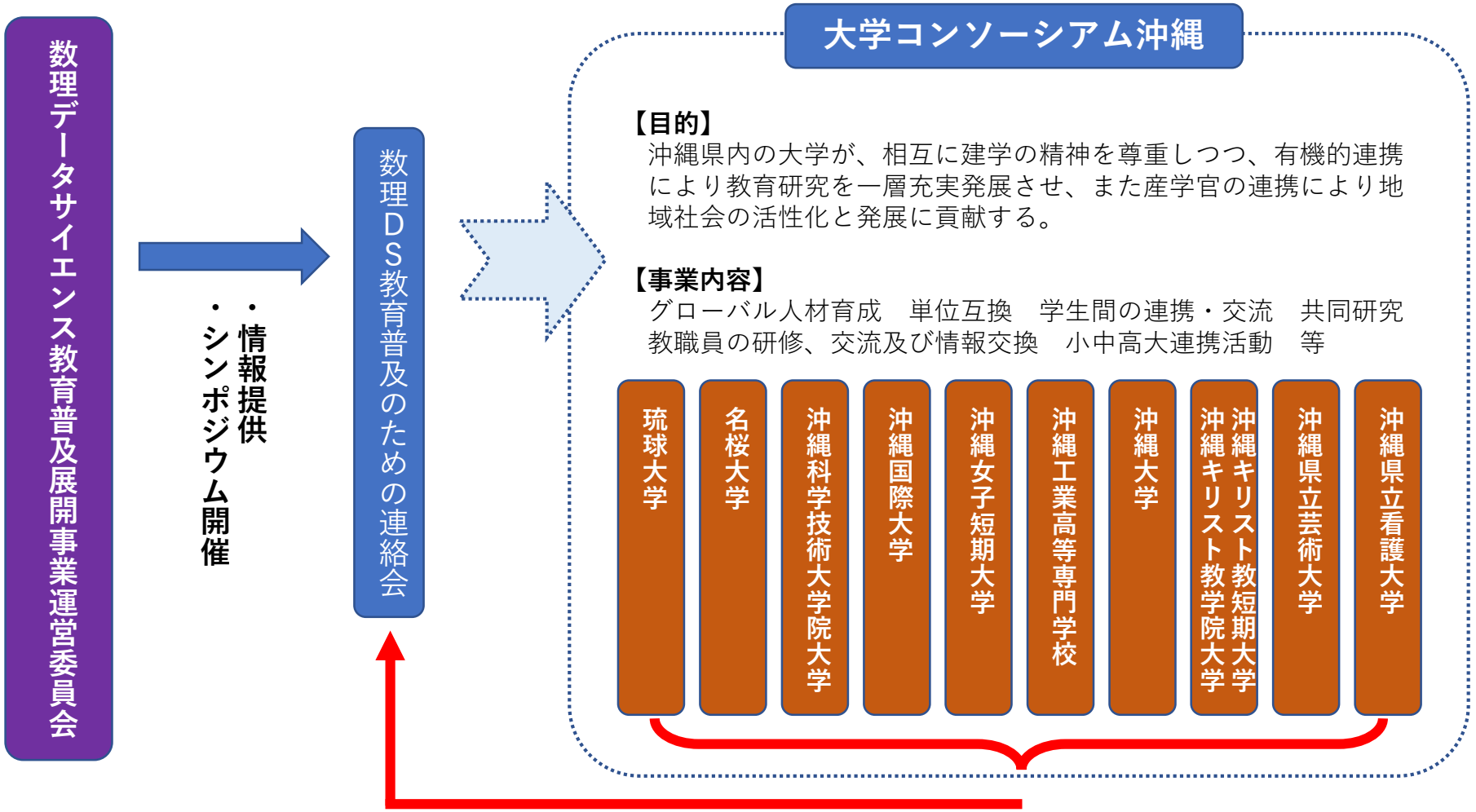
今後の取組

【プログラム】
- 国際地域創造学部経済系の数理DSカリキュラム構築（初年次から高年次まで）
  科目設置　授業環境整備
- 工学部知能情報コースのカリキュラム高度化
  PBL強化

【全学】
- 全学的な数理DS教育*方針*や*実施体制*を検討する組織設置
  グローバル教育支援機構に「数理データサイエンス教育支援専門委員会」（予定）
  各学部から委員選出　全学的な教育を検討する委員会と連携
- 採択事業の運営組織
  上記専門委員会の下に「数理データサイエンス教育普及展開事業運営委員会」（予定）
  事業目標達成の管理

【沖縄県】
- 県内大学生への数理DS教育を推進
  県内大学と数理DS教育普及のための連絡会設置予定
  ⇨　大学コンソーシアム沖縄との連携
  数理・DS教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラムやコンテンツ等の活用
- *「数理・データサイエンス教育普及展開シンポジウム*
  ～すべての県内大学生へデータサイエンスを～」 令和元年12月14日開催

沖縄県内数理DS教育普及にむけて（構想）





「数理・データサイエンス教育強化」事業　協力校

数理データサイエンス教育普及展開シンポジウム

～すべての県内大学生へデータサイエンスを～

日時：2019年12月14日(土)13:30～16:30
場所：琉球大学附属図書館　ラーニングコモンズ
（沖縄県中頭郡西原町千原1番地）

プログラム

司会：岡崎　威生（琉球大学工学部　教授）

13:00　受付開始

13:30　開会挨拶（琉球大学理事・副学長　井上　章二）

13:40　基調講演　真嘉比　愛　氏
（ちゅらデータ株式会社　代表取締役社長）
「大学に期待する数理データサイエンス人材」

14:30　事業説明（琉球大学）
① 事業概要・琉大の取り組み
② データサイエンス教育のポイント

15:05　事例紹介（宮崎大学）
「数理・データサイエンスを活かした地域産業人材の育成に向けたカリキュラム・教材の開発」

15:40　意見交換会
沖縄県数理データサイエンス連絡会立ち上げ

16:25　閉会

17:00　情報交換会（18:00 終了予定）

【申込締切日】 2019 年 12 月 10 日(火)

TEL：098-895-8124　FAX：098-895-8850
✉kykikaku@acs.u-ryukyu.ac.jp

基調講演



ちゅらデータ株式会社
代表取締役社長　真嘉比　愛　氏

＜略歴＞
沖縄工業高等専門学校を卒業後、長岡技術科学大学大学院にて自然言語処理を専攻。
卒業後、広告事業のデータ分析などを経験し、2016 年に DATUM STUDIO に入社。2017 年に沖縄に子会社としてちゅらデータを創業。ビジネスデータのみならず、自然言語処理、画像解析など 100 社を越える AI 構築のコンサルティング・開発に従事。
DATUM STUDIO 副社長 / 沖縄 IT イノベーション戦略センター 理事

【会場地図】



【申込方法】
こちらのフォーム又は QR コード
よりお申し込みください

【主催】 琉球大学グローバル教育支援機構
【協力】 大学コンソーシアム沖縄

大学の数理及びデータサイエンス教育の全国展開

令和2年度要求・要望額　12億円
(前年度予算額　9億円)
※国立大学法人運営費交付金の内数

文部科学省

背景・課題

✓ デジタル時代の「読み・書き・そろばん」である「数理・データサイエンス・AI」の基礎などの必要な力を全ての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を構築する必要がある。

✓ AI戦略2019では、**2025年度を目標年度**として、**①文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人 卒/年）が初級レベルの能力を習得**すること、**②大学・高専生（約25万人 卒/年）が、自らの専門分野への応用基礎力を習得**することが掲げられているところ。

⇒

・これまでの全学部学生に対する全学的な数理・データサイエンス・AI教育の実施に加え、さらに**新たに25万人に対して、応用基礎レベルの教育を展開**する目標が設定され、対応できるカリキュラムを実装していくことが必要であり、その策定に当たっては**専門分野別の観点**も取り入れる必要。

・全学的に展開する基礎プログラムの構築は進んでいる一方で、**文系のみ、単科のみの大学等においては教員などリソースの確保が困難。**

・**2025年度までに、50万人・25万人が習得できることを目標**とし国公私立大学等への展開を**一層加速**する必要。

取組内容

✓ **6大学を拠点**として設置し、全学的な数理・データサイエンス教育を先行的に実施するとともに、拠点大学で形成するコンソーシアムにおいて、標準カリキュラム・教材を開発。

✓ **20大学を協力校**として設置し、全国の国公私立大学等への普及・展開を図るとともに、教えることができる教員を増やすためのFD活動を実施。

✓ さらに数理・データサイエンス教育の全国展開をより一層加速するため、対象大学が多い**特定地域について協力校を重点配置**するとともに、当該協力校の特色を活かして地方大学に対しても教育を展開。

・協力校（特定地域対応）　新規１０校

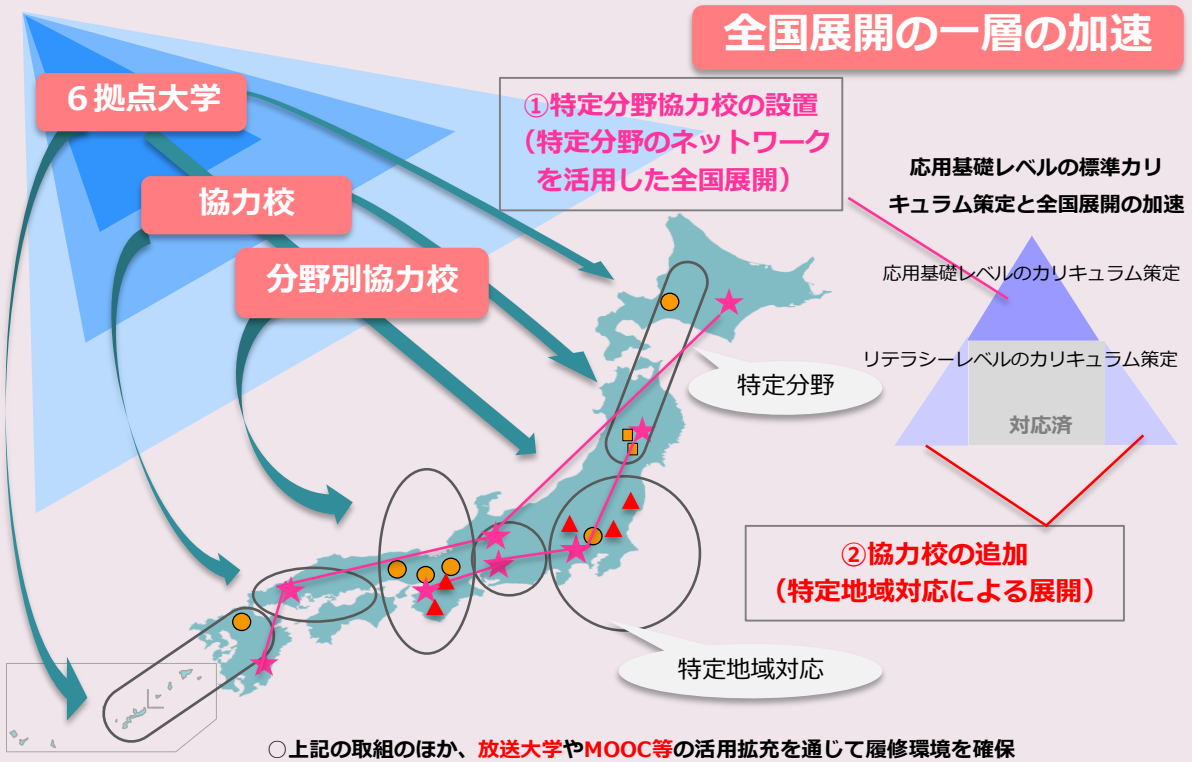
✓ 一方、専門分野別の観点を踏まえた**応用基礎レベル**の標準カリキュラムを策定するとともに、その教育を全国展開するために、新たに**特定分野協力校を設置**し、全ての学生が数理・データサイエンス教育を受けられる環境を構築。

・特定分野協力校　１０校（新規含む）

＋

数理・データサイエンス・AIの優れた教育プログラムを認定する制度の構築

全国展開の一層の加速



○上記の取組のほか、**放送大学**や**MOOC等**の活用拡充を通じて履修環境を確保

※放送大学においては標準カリキュラムに準拠した授業科目を制作予定(令和2年度要求)